

令和元年度
文部科学省事業
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）
研究開発実施報告書（第1年次）

世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築



長野県白馬高等学校
Hakuba High School

「白馬で本物に出会い、世界に羽ばたく、そして・・・」

学校長 白井 彰一

学校設立からは 70 年目、地域と協働した新しい姿の高校として 5 年目を迎えています。

平成 28 年度から普通科に全国募集の国際観光科が加わり、全国あるいは県内各地から集った生徒と地元出身の生徒の間には、それぞれが育った風土や文化の違いが新たな発見や気づきを生み、お互いを尊重しながら新たな伝統を築いていこうという気風が育っています。

本校では、類まれな山岳自然環境と訪れる外国人旅行者や居住する外国人の多さという地域の資源と特性を最大限に活用した実践的・探究的な学習活動により「多様な文化、考えに触れる中で地域の素晴らしさを理解し、自分の考えを発信するとともに、地域の課題解決に主体的に行動できる生徒」の育成を目標としています。

本校の経営・運営に参画する白馬村・小谷村をはじめ、「白馬コンソーシアム」や地元の企業・団体の皆さん、そして、白馬の地を愛する多くの方々からの協力や協働による数々の教育活動は、まさに「白馬にしかない学び」であり、「本物に触れる学び」です。

2 年生からコース制が始まっており、普通科では「文理」「教養」、国際観光科では「国際」「観光」の各コースに分かれ、「環境 I」や「山岳基礎」「Asian Language」「アウトドアスポーツ」「グローバル観光」などの学校設定科目により特色ある学びを深めています。

特に 2 年生では、すべてのホテル業務を本校生だけで行う「高校生ホテル」を、3 年生では、観光業等の仕事に実際に従事する「デュアルシステム」を実施することにより、より実践的な学びにつながるように考えています。

また、教育旅行でこの地を訪れた外国の生徒との国際交流は、昨年度 8 か国を数えました。連携協定を結んだ BST（ブリティッシュ・スクール・イン東京）との相互交流を併せ、多様な国々で学ぶ同世代との交流は、異文化への理解を深めると共に、国際社会を生きるために必要な発信力とコミュニケーション力を高める貴重な機会として位置付けており、本校の大きな特色となっています。

多くのオリンピック選手を輩出してきたスキー部をはじめとする部活動、主体的に地域貢献活動に取り組む生徒会活動、白馬村・小谷村により設置された公営塾「しろま学舎」での自立的な学習、生徒寮「しろま Pal House」での自治的な活動が加わり白馬高校を形作っています。

地域と共に歩む本校の特色ある活動の様子をご覧いただき、ご意見を頂戴できれば幸いです。

目 次

学校長より	
I 学校概要	1
II 本事業の概要	
1 研究開発の概要	6
2 研究開発概念図	9
3 ロジックモデル	10
III 研究開発実施状況	11
IV 取組内容	
○ 研究を通して実証する仮説	
1 観光Ⅱを中心にした教科横断型 PBL	17
2 3年総合学習，学校行事において，SDGs を活用した探究学習の実践	26
3 3年国際観光科「グローバル観光」	28
4 「白馬 SDGs ラボ」	30
5 学校と地域と連携した取組	36
○ 仮説検証のための取り組みをより効果的にするための単発的な活動	
1 学びの土壌づくり チームビルディング実践	37
2 大学生と学ぶ PBL 合宿	38
3 校外におけるボランティア活動	40
4 デュアル実習	41
5 活動の考察	42
V 評価・次年度への課題	
1 目標の進捗度と次年度への課題	43
2 学校評価	44
3 次年度以降の課題及び改善点	47
VI 運営指導委員会	48
VII コンソーシアム	56
VIII 掲載新聞記事	57

I 学校概要

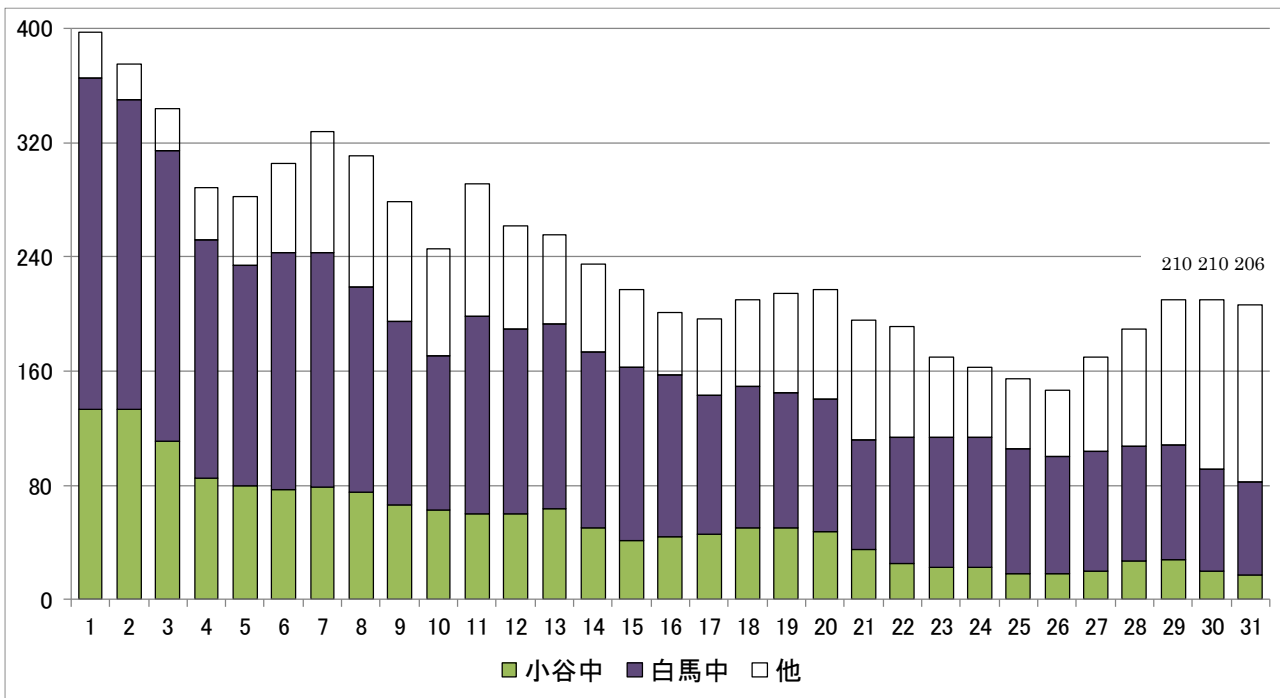
1 過去5年間の在籍生徒数推移

H25年度－155名 H26年度－147名 <再編基準に該当>

H27年度－170名 H28年度－189名 H29年度－210名 H30年度－210名 **H31年度－206名**

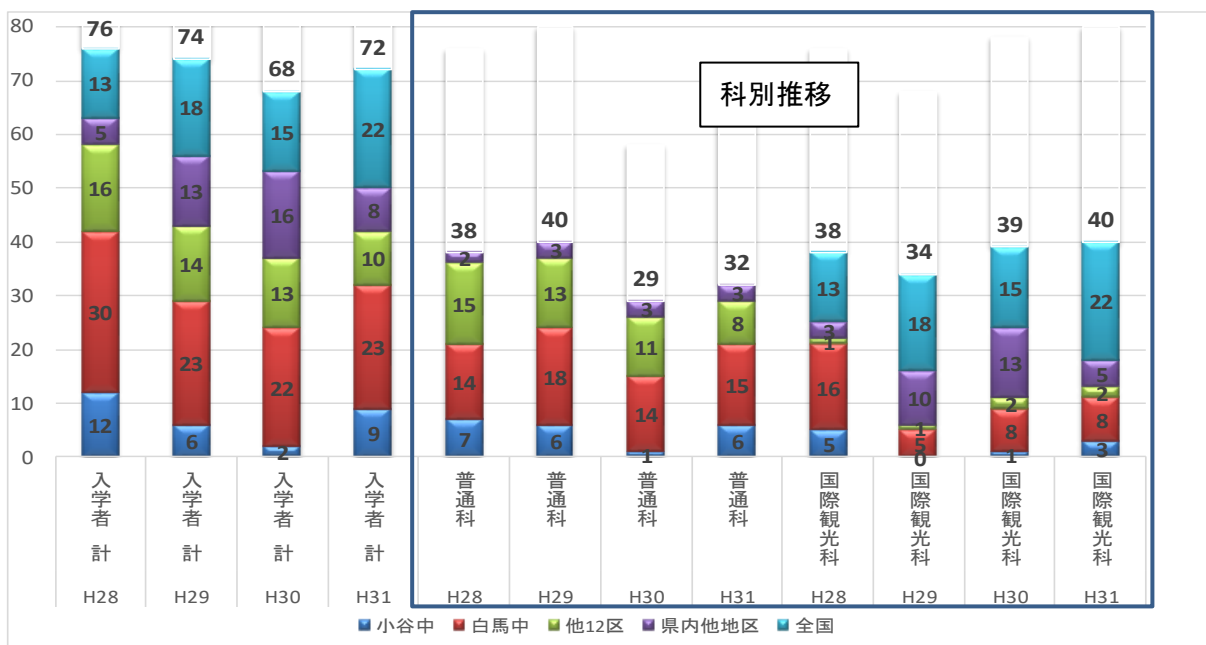
2 平成元年からの在籍生徒数推移

※縦軸は生徒総数（単位：人） 横軸は年度



3 平成28年度からの出身地別入学者の推移

※平成28年度 国際観光科設置 全国募集開始



4 平成 31 年度入学者 科別・出身地別内訳

国際観光科	地区	選抜	都道府県	男	女	小計	
	県外	前期	宮城県			1	1
埼玉県					1	1	
東京都			1		1	2	
神奈川県					1	1	
新潟県			1		1	2	
富山県					1	1	
石川県			1			1	
愛知県					1	1	
京都府			1			1	
大阪府					2	2	
兵庫県			1			1	
小計			5		9	14	
後期			埼玉県	2			2
			富山県	1			1
		愛知県	1		1	2	
		兵庫県	1			1	
		岡山県	1			1	
		山口県			1	1	
		小計	6		2	8	
県外計		11		11	22		
県内他地区		前期	上田市	1			1
			駒ヶ根市	1			1
	松本市				1	1	
	安曇野市				1	1	
	小計	2		2	4		
	後期	安曇野市			1	1	
		小計	0		1	1	
県内他地区計	2		3	5			
12区	前期	白馬村	3		5	8	
		小谷村	1		1	2	
		大町市			1	1	
		小計	4		7	11	
	後期	白馬村				0	
		小谷村			1	1	
		大町市			1	1	
		小計	0		2	2	
	12区計	4		9	13		
	総計	17		23	40		

普通科	地区	選抜	市町村	男	女	小計
	県内他地区	前期	長野市		1	
安曇野市					1	1
小計			1		1	2
後期		安曇野市			1	1
		小計	0		1	1
県内他地区計		1		2	3	
12区	前期	白馬村		4	3	7
		小谷村		2	3	5
		大町市		1	1	2
		小計	7		7	14
	後期	白馬村		6	2	8
		小谷村		1		1
		大町市		1	5	6
小計	8		7	15		
12区計		15		14	29	
総計		16		16	32	



5 在籍生徒数

学年	組	男	女	在籍生徒数	休学者	留学者
1	A (普通科)	16	16	32	72	男 0、女 0
	B (国際観光科)	17	23	40		男 0、女 0
2	A (普通科)	8	19	27	66	男 0、女 0
	B (国際観光科)	21	18	39		男 0、女 0
3	A (普通科)	14	21	35	68	男 0、女 0
	B (国際観光科)	22	11	33		男 0、女 0
合計		98	108	206		男 0、女 0

6 入寮生・下宿生について

H29 生	男子	県外	千葉、埼玉、東京(3)、静岡、愛知(2)、大阪、広島、鹿児島、国外	12	16	22	
		県内他地区	長野、飯山、松本、岡谷	4			
	女子	県外	北海道、埼玉、東京、大阪、長崎	4	6		
		県内他地区	上田、安曇野	2			
H30 生	男子	県外	千葉、埼玉、東京(2)、静岡、兵庫、大阪(2)	8	15		26
		県内他地区	長野、上田、東御、諏訪、茅野、伊那、駒ケ根	7			
	女子	県外	北海道、東京(2)、神奈川(2)、石川	6	11		
		県内他地区	長野、中野、上田、東御、安曇野	5			
H31 生	男子	県外	埼玉(2)、東京、新潟、富山、石川、愛知、京都、兵庫(2)、岡山	11	13	24	
		県内他地区	上田、駒ケ根	2			
	女子	県外	宮城、埼玉、東京、神奈川、新潟、富山、愛知(2)、大阪、山口	10	11		
		県内他地区	松本	1			

【入寮生】 72名

1年 24名 (男子13 女子11)

2年 26名 (男子15 女子11)

3年 22名 (男子16 女子6)

【下宿生】 7名

1年 0名

2年 3名 (男子1 女子2)

3年 4名 (男子3 女子1)

7 公営塾（しろうま學舎）への通塾状況

在籍者数

学 年	男 子	女 子	合 計
1年	13 (8)	17 (7)	30 (15)
2年	9 (7)	15 (8)	24 (15)
3年	3 (2)	6 (3)	9 (5)
計	25 (17)	38 (18)	63 (35)

※ () 内の数字は寮・下宿生の内数

8 国際観光科の取り組み

1学年国際観光科の取組(令和元年度)

月	ホームルーム活動	地域連携授業での取り組み		その他
		観光Ⅰ	英語	
4月	高校生としての心構え	オリエンテーション	ポスター発表「異文化とはなにか」	第1回グローバル講演会 (バタゴニア 日本支社長辻井隆行氏)
	学年オリエンテーション	チームビルディング		
5月	文化祭準備～7月	田植え学習	SDGsアイデアブック英訳プロジェクト(～7月)	
	携帯電話講座			
6月	文化祭準備～7月	地域学習(長野県地理概略)		
		長野プロデュースデザインコンテスト企画案		
7月	文化祭クラス展(フルーツポンチ)の準備	表現スキル習得への事前学習(PPT)	第1回English Day	第1回学校運営協議会
	登山準備、荷物チェック		神田外語大東南アジア小論文	
	夏期休業に向けての心構え			
8月	夏期休業明けの切り替えと心構え		Global Classmates(異文化理解)～2月	第2回グローバル講演会 (シンガーソングライター清水まなぶ氏)
9月	就労体験マナー講習会	表現スキル実習(総合教育センター)		
	就労体験準備と地元企業への理解	北アルプス山麓ブランド学習		
		地域企業研修(白馬五竜・旅館木塵)		
10月	就労体験実施	長野プロデュースデザインコンテスト企画・応募		第3回グローバル講演会 (昆虫植物写真家・自然ジャーナリスト山口進氏)
	就労体験お礼状作成と手紙の書き方講座	北アルプス山麓ブランド松本駅販売実習		白馬南小学校PTA祭り運営補助ボランティア
11月	はくばフォーラム			
12月	SSTプログラム	北アルプス国際芸術祭2020ガイダンス	英語科と他教科の教科横断授業実施	第2回学校運営協議会
	職業別講話			
1月	アサーショントレーニング一部実施	Nature Nation Hakuba原種のための調査・執筆	異文化理解クイズコンテスト原稿作成	
	スキー・スノーボード教室	白馬村観光局の取り組み、プロモーション戦略		
2月		Nature Nation Hakuba原種のための調査・執筆	八方バスターミナルでの英語アンケート実施	
3月	卒業式			第3回学校運営協議会

2学年国際観光科の取組(令和元年度)

月	ホームルーム活動	地域連携授業での取り組み		その他
		観光Ⅱ	英語	
4月	学習と進路の心構え	オリエンテーション	観コミュ英語研修(地獄谷・小布施・善光寺)	第1回グローバル講演会 (バタゴニア 日本支社長辻井隆行氏)
	台湾修学旅行の心構え	高校生レストラン事前学習		
5月	文化祭準備～7月(台湾修学旅行展)	高校生レストラン事前学習		
6月	文化祭準備～7月(台湾修学旅行展)	高校生レストラン実施	観コミュ英語研修(松本城・大王わさび農園)	
7月	文化祭準備～7月(台湾修学旅行展)	高校生ホテルに向けた学習	観コミュ英語研修(松本城・大王わさび農園)	第1回学校運営協議会
	夏期休業に向けての心構え(進路準備)		第1回English Day	
8月	夏期休業明けの切り替えと心構え	高校生ホテルに向けた学習		第2回グローバル講演会 (シンガーソングライター清水まなぶ氏)
	台湾修学旅行交流プレゼンテーション準備			
9月	台湾修学旅行交流プレゼンテーション準備	接客接遇実習(シェラリゾート白馬)	台湾についての調べ学習	
			第2回English Day	
10月	台湾修学旅行実施(9/30～10/4)	接客接遇実習(シェラリゾート白馬)	台湾についてのプレゼンテーション	第3回グローバル講演会 (昆虫植物写真家・自然ジャーナリスト山口進氏)
	台湾修学旅行事後指導			白馬中学校進路学習生徒参加
	はくばフォーラムプレゼンテーション準備			白馬南小学校PTA祭り運営補助ボランティア
11月	はくばフォーラム			
12月	高校生ホテル実施			
		宿泊施設の歴史について	神社への参拝の仕方案内のプレゼンテーション	第2回学校運営協議会
		ホテルの種類について		
1月	スキー・スノーボード教室	ホテルと旅館の違いについて	神社への参拝の仕方案内のプレゼンテーション	
		宿泊に関する法律について	八方バスターミナルでの英語アンケート実施	
		旅行、旅の歴史について		
2月		観光資源とは何か	総合英語カルチャーフェア準備	白馬北小学校4年生とのSDGs交流
		観光まとめレポート	総合英語カルチャーフェア実施	
3月	卒業式			第3回学校運営協議会

3学年国際観光科の取組(令和元年度)

月	ホームルーム活動	地域連携授業での取り組み		その他
		グローバル観光	英語	
4月	学習と進路の心構え	オリエンテーション		白馬高校型デュアルシステム実習～8月
	就職者ガイダンス	インバウンドの現状について		第1回グローバル講演会 (パタゴニア 日本支社長辻井隆行氏)
	進学者ガイダンス			
5月	文化祭準備～7月(各クラス企画、全校企画)	インバウンドの課題について		白馬高校型デュアルシステム実習～8月
	2019進路のしおり読み合わせ			SDGsワークショップ(環境アクティビスト清水イアン氏)
	進学のためのマネープラン講座			
6月	文化祭準備～7月(各クラス企画、全校企画)	観光と地域経済循環		白馬高校型デュアルシステム協定式
	学生支援機構奨学金説明会			白馬高校型デュアルシステム実習～8月
	さんぽう進路講演会			
7月	文化祭準備～7月(クラス企画、全校企画)	地域産業関連調査	第1回English Day	中学生体験入学学校説明プレゼン
	夏期休業に向けての心構え(進路準備)			白馬高校型デュアルシステム実習
	AO、公募推薦出願者ガイダンス			第1回学校運営協議会
	夏季補習説明会			
8月	夏期休業明けの切り替えと心構え	PTA研修旅行の企画	入学希望者説明会での時事テーマ英語プレゼンテーション	白馬高校型デュアルシステム実習～8月
	はくばフォーラムプレゼンテーション準備			第2回グローバル講演会 (シンガーソングライター清水まなぶ氏)
9月	はくばフォーラムプレゼンテーション準備		第2回English Day	BST(ブリティッシュ・スクール・イン・東京)との交流
	面接、小論文指導			
	センター試験出願者ガイダンス			
10月	はくばフォーラムプレゼンテーション準備	PTA研修旅行実施		第3回グローバル講演会 (昆虫植物写真家・自然ジャーナリスト山口進氏)
	面接、小論文指導			白馬中学校進路学習生徒参加
				SDGsワークショップ(世界の危機的状況を伝えるプレゼンづくり)
11月	はくばフォーラム			
12月	三者面談前個人面談	観光公害について	時事英語での世の中を変える最新技術調べ(5Gなど)	
1月	スキー・スノーボード教室	2次交通について	時事英語最終プレゼンテーション、レポート提出	
	ろうきんマネープラン講座	観光まとめレポート		
	3年生振り返りシート記入			
2月				
3月	卒業式			

II 本事業の概要

1 研究開発の概要

指定期間	ふりがな	ながのけんはくばこうとうがっこう				②所在都道府県	長野県
2019～2021	①学校名	長野県白馬高等学校				県	
③対象学科名	④対象とする生徒数					⑤学校全体の規模	
	1年	2年	3年	4年	計	各学年，普通科1クラス，国際観光科1クラス，全校6クラスの小規模校	
	普通科	34	28	36			
国際観光科	40	39	33		112		
⑥研究開発構想名	世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築						
⑦研究開発の概要	① PBL の実践を通してのカリキュラム，アセスメントの開発 ② 地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬 SDGs ラボ」の設置 ③ 地域と連携した授業を推進するためのコンソーシアムの設置						
⑧研究開発の内容等	⑧-1全体	<p>(1) 目的・目標</p> <p>地域と協働した学びにより，白馬で成長した生徒が，この地域を支え，あるいは世界を舞台に活躍し，その姿を見た生徒がまた白馬に集う。そのような好循環を永続的に生み出せる学校にすることを目的とする。</p> <p>(2) 現状の分析と研究開発の仮説</p> <p>①学校の現状と課題</p> <p>本校は大自然に囲まれた国際色豊かな白馬というフィールドを活かし、普通科では，白馬の自然環境を活かしたフィールドワークや，野外自然体験学習を行っている。国際観光科では，地元の外国人との交流を通し，観光を題材にした実践的な英語の学習や，高校生が宿泊施設の宿泊プランの企画から運営までを行う高校生ホテル実習などの取組を行っている。</p> <p>国際観光科は平成 28 年度に開設され，全国募集を行っている。全校生徒のうち県内外からの生徒は 20.9%，県内他地区からの生徒は 16.1%である。また，県外生徒，県内他地区からの生徒は，寮や下宿で生活をしている。そのため，地域にある高校でありながら，県外や県内他地区からの生徒が多く，多様な地域の出身者が在籍している。</p> <p>課題として，将来白馬で生活をしたいという生徒が少ない状況である。今年度の3年生の卒業後の進路として，白馬小谷地域に就職する生徒の割合は，わずか3人（4.0%）である。</p> <p>②地域の現状と課題</p> <p>白馬村は，人口約 9,000 人規模の日本有数のリゾート地であり，この 10 年で外国人旅行者は急増し，昨シーズンのスキー場への来場者は 35 万人を超えた。外国人の移住も多く，人口に占める外国人の割合は 6.2%と，長野県内で一番比率が高い。一方で課題として，民宿やペンションオーナーの高齢化と事業継承の問題がある。民宿やペンションは個人経営や家族経営が多く，労働環境も厳しいところが多い。跡継ぎになる子どもの多くは大学進学の際に都市部へ出て，そのまま就職している。</p>					

	<p>(3)課題を解決するための主な仮説</p> <p>① 既存のカリキュラムを体系化し、地域課題を解決するための PBL を実施することで、生徒の学習集活動に対する当事者意識と課題解決の力が高まる。</p> <p>② 生徒と地域の人が実践活動を行う場「白馬 SDGs ラボ」を設置することで、地域全体で社会問題についての関心が高まり、地域の人と生徒が地域の未来について考えることができる。</p> <p>③ 生徒が地域をフィールドにした PBL を通して地域について学び、地域の人と関わることで、生徒の白馬・小谷地域に対する愛着が高まる。</p>
<p>⑧- 2 具 体 的 内 容</p>	<p>(1) 地域との協働による探究的な学びを実現する学習の実施計画</p> <p>各学年で協働性をもつチームとして当事者意識を高め、資料を読み解く力、情報・収集分析力を身に付けたうえで、地域課題をテーマにした PBL を実施する。教科学習においては、地域を題材にし、学ぶ内容と社会を関連付けて行う。</p> <p>仮説 1 教科横断型の学びと PBL ができるカリキュラムの確立と、生徒が主体的に学びたくなる環境の整備 PBL の実践を通してのカリキュラム、アセスメントの開発</p> <p>1 年次 (2019 年度)</p> <p>国際観光科 2 年「観光Ⅱ」を中心に教科横断型 PBL の授業 (観光Ⅱ, 観光コミュニケーション英語, 家庭総合, 総合的な探究の時間)</p> <p>2 年次 (2020 年度)</p> <p>パフォーマンス評価, ルーブリック評価に関する研究と各授業での実験 (総合的な探究の時間, 観光Ⅰ, 観光コミュニケーション英語, 観光Ⅱ, グローバル観光)</p> <p>3 年次 (2021 年度)</p> <p>教科横断型 PBL の実施と育てたい生徒像に対応するアセスメントの完成</p> <p>仮説 2 生徒と地域の人が SDGs をテーマに学び、実践活動を行う「白馬 SDGs ラボ」の設置</p> <p>SDGs ワークショップの開催及び SDGs の目標 13「気候変動を軽減させる取り組み」の実践</p> <p>仮説 3 地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬コンソーシアム」の設置</p> <p>a カリキュラム, アセスメント開発, 授業実践に関わるサポート</p> <p>b 地域での活動における講師派遣, 協働事業の実施</p> <p>c 英語教育, 国際交流のサポート。グローバル教育(国際バカロレア, イエナプラン教育, PBL)に関する見地の情報共有, 研修。</p> <p>(2)カリキュラム・マネジメントの推進体制</p> <p>① 校内実行委員会で、授業プランの企画、アセスメントの例示、地域連携の仲介を行い、授業担当者は該当授業で育てたい生徒像と教科学習の内容を反映したアセスメントを開発し、授業を実施する。</p> <p>② 授業担当者は、実施した授業についてリフレクションを行い、校内実行委員会へフィードバックを行う。</p> <p>③ 校内実行委員会は、授業担当者からのフィードバックをもとに修正、改善を行い、全体の授業プランに反映させる。</p> <p>④ ①～③の過程を繰り返し行いながら、教育課程委員会とともに、シラバスを作成し、カリキュラム化していく。</p>

		(3) 必要となる教育課程の特例等 特記なし
⑨その他 特記事項		平成 30 年度に実施した「高校生ホテル」では、英語科の「観光コミュニケーション英語」と商業・地理歴史科の「観光Ⅱ」の授業を連動させ、教科横断的な学びを行い、教科融合型の PBL の試験導入を行った。効果として、授業で学んだことを生徒が高校生ホテルのお客さんへのサービスという形で提供し、その場でお客さんの様々な反応を見ることで、自分の学びと実社会とのつながりを体験できた。



世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築

目指す学校像

地域と協働した学びにより白馬で成長した生徒が、この地域を支え、あるいは世界を舞台に活躍し、その姿を見た生徒がまた白馬に集う。そのような好循環を永続的に生み出せる学校。

山岳リゾート白馬・小谷地

【育てたい生徒像①】
地域課題に当事者意識を
持って解決できる生徒

白馬高校

白馬 SDG's ラボ

～地域の人々と学び、実践する場～
【実践力・チームワーク】
白馬で SDGs 達成のために、
「小学生、中学生、高校生、大人が
協働して、やりたいことをやる。」

PBL

3年 白馬の未来を
デザインする
【倫理観・多様性・協働性】

白馬の理想の
未来を創る PJ

教科学習

チームビルディング

【育てたい生徒像②】
学校を飛び出し
地域で実践したい生徒

2年 地域課題の
解決策を提言する
【創造力・論理的思考力】

白馬の課題の解決
策を提言する PJ

教科学習

チームビルディング

白馬コンソーシアム

<学びのサポーター>

松本大学

信州大学

<地域のサポーター>

白馬村・小谷村

白馬観光開発株式会社

八方尾根開発株式会社

しろうま荘

シェラリゾート白馬

白馬東急ホテル

<グローバル教育>

白馬インターナショナルスクール

設立準備財団

1年 地域を知り、発信する
【情報収集・分析力】

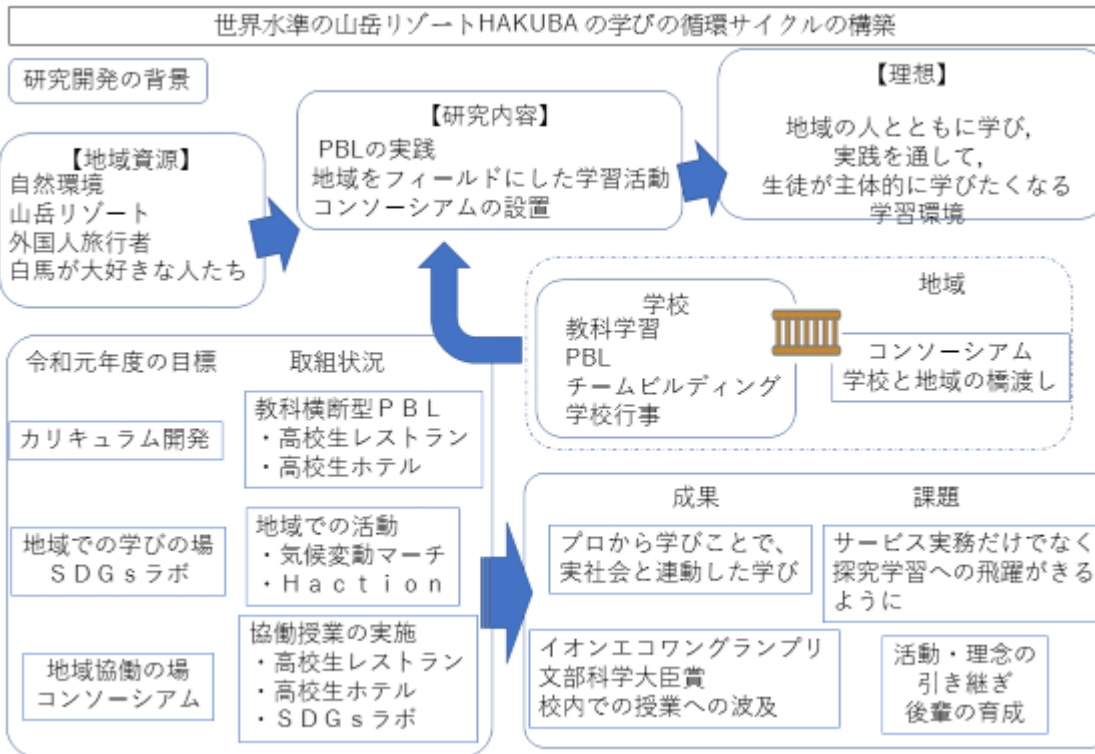
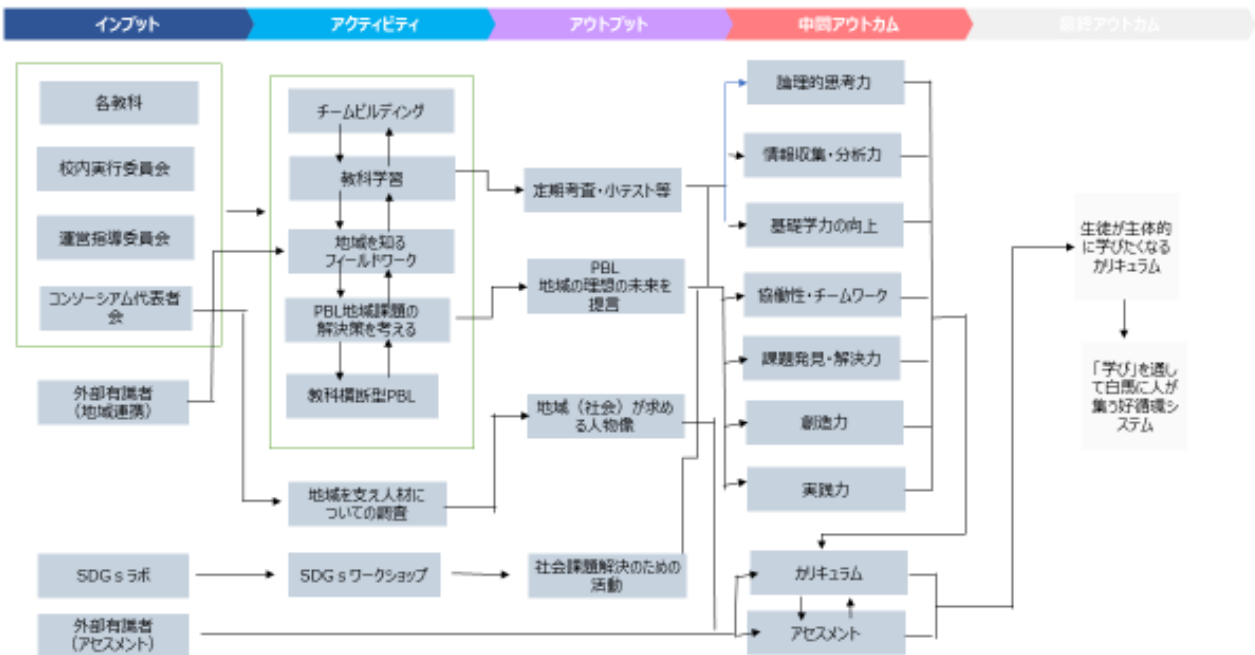
白馬の魅力を他者
に伝える PJ

教科学習

チームビルディング

観光を材料とした英語学習

3 ロジックモデル



Ⅲ 研究開発実施状況

1 事業の実施期間

令和元年（2019年）5月30日（契約締結日）～ 令和2年（2020年）3月31日

2 指定校名・類型

学校名 長野県白馬高等学校

学校長名 臼井 彰一

類型 地域魅力化型

3 研究開発名

世界水準の山岳リゾート HAKUBA の学びの循環サイクルの構築

4 研究開発概要

- (1) PBL の実践を通じたカリキュラムとアセスメントの開発
- (2) 地域をフィールドにした学習活動を推進するための「白馬 SDGs ラボ」の設置
- (3) 地域と連携した授業を推進するためのコンソーシアムの設置

5 教育課程の特例の活用の有無

無

6 管理機関・外部機関の支援体制と活動報告

- (1) コンソーシアム構築とコンソーシアムとの協働した取組

① コンソーシアムの構成団体

機関名	機関の代表者名
松本大学総合経営学部	副学長・学部長 増尾 均
信州大学学術研究院教職支援センター	センター長 平野 吉直
白馬村	村長 下川 正剛
小谷村	村長 中村 義明
白馬観光開発株式会社	代表取締役社長 和田 寛
八方尾根開発株式会社	代表取締役 倉田 保緒
しろうま荘	支配人 丸山 俊郎
シェラリゾート白馬	代表取締役 金澤 邦隆
白馬東急ホテル	総支配人 吉野 良平
白馬インターナショナルスクール設立準備財団	代表理事 草本 朋子
長野県教育委員会	教育長 原山 隆一

② 各団体の支援内容

- ・カリキュラム作成に関わる内容
松本大学総合経営学部，信州大学学術研究院教職支援センター
- ・地域とのコーディネーター
白馬村，小谷村
- ・観光産業の実務的なことに関わる内容

白馬観光開発株式会社，八方尾根開発株式会社，しろうま荘，シェラリゾート
白馬，白馬東急ホテル

・教育全般に関わる内容

白馬インターナショナルスクール設立準備財団，長野県教育委員会

③ コンソーシアム活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
平成 31 年 4 月 8 日	コンソーシアム構成団体個別協議（白馬東急ホテル） 高校生レストランの実施日，授業内容を協議，決定
平成 31 年 4 月 23 日	コンソーシアム構成団体個別協議（シェラリゾート白馬） 高校生ホテルの実施日，授業内容を協議，決定
令和元年 5 月 13 日	コンソーシアム構成団体個別協議（白馬インターナショナル スクール設立準備財団）SDGs ラボの実施日，内容を協議決 定
令和元年 5 月 17 日	コンソーシアム構成団体個別協議（白馬村） 地域連関調査と地域経済循環に関わる学習の授業内容を協 議，決定
令和元年 12 月 26 日	第 1 回コンソーシアム担当者会 ・活動内容の報告 ・各団体からの提案を協議し，第 2 会合に向けての協議内容 を設定

(2) カリキュラム開発等専門家又は海外交流アドバイザーとの協働した取組

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付け

柳田 優氏（非常勤職員として雇用）月 12 回程度本校で勤務

② 活動日程・活動内容

活動日程（1部抜粋）	活動内容
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年 5 月 19 日 「酒米田植え」 ・令和元年 6 月 10 日 「サイクルフェスタ」 ・令和元年 7 月 13 日～8 月 31 日 「白馬駅歓送迎イベント」 ・令和元年 8 月 31 日，9 月 1 日 「白馬村運動会アナウンス，準備」 ・令和元年 9 月 21 日 「車椅子スポーツ体験会」 ・令和元年 10 月 5 日 「酒米稲刈り」 ・令和元年 10 月 12 日 「南小学校 PTA 祭り」 ・令和 2 年 1 月 23 日，30 日 「岩岳夜祭」 ・令和 2 年 2 月 1 日，2 日（予定） 「JTBF 白馬村来訪者調査」 	<ul style="list-style-type: none"> （生徒のボランティア活動の コーディネーターとして活 動） ・地域でのボランティア活動 の情報収集と参加者とりま とめ ・「ボランティアニュース」に おける生徒の活動状況の広 報 ・ボランティア実施後のアセ スメント ・学校運営協議会コンソーシ アム等での活動状況報告
原則毎週木曜 2 限目に開催	・課題解決委員会に出席，参 画
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年 7 月 8 日「第 1 回学校運営協議会」 ・令和元年 11 月 14 日「第 1 回運営指導委員会」 ・令和元年 12 月 16 日「第 2 回学校運営協議会」 ・令和元年 12 月 26 日「第 1 回コンソーシアム担当 者会」 	・学校運営協議会，運営指導 委員会，コンソーシアム担 当者会に出席
・令和元年 7 月中～下旬	・高校魅力化評価システムア ンケート調査の実施

・令和元年 8 月 8～9 日	・白馬高校 PBL 合宿（信州大学他の学生との協働）参加
・令和元年 9 月 5 日	・長野県政策対話「インバウンド推進における受け入れ環境の整備について」参加
・令和元年 10 月 24 日	・「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」全国サミットに出席
・令和元年 12 月 17 日	・マレーシア高校生との交流事業に参加

(3) 地域協働学習実施支援員との協働した取組

① 指定した人材・雇用形態・高等学校における位置付けについて

しろうま荘 支配人 丸山俊郎 氏

② 実施日程・実施内容

活動日程	内容
<ul style="list-style-type: none"> ・平成 31 年 4 月 18 日 「スノーモンキーツアー演習」 ・令和元年 6 月 7 日 「松本城模擬ツアー演習」 ・令和元年 6 月 27 日 「松本城モニターツアー」 ・令和元年 12 月 7 日「白馬村内ツアー」 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 年国際観光科授業「観光コミュニケーション英語」での、授業案作成，授業 ・白馬地域で外国人向けツアーを行っている旅行会社との協働による，ツアーガイドの演習（スノーモンキー，松本城） ・村内在住の外国人を対象にしたモニターツアーの実施（松本城）
<ul style="list-style-type: none"> ・令和元年 12 月 3 日「事前学習」 ・令和元年 12 月 7～8 日 「高校生ホテル」 	<ul style="list-style-type: none"> ・2 年国際観光科「観光Ⅱ」高校生ホテル実施に向けての連絡調整，事前学習
随時	・地域でのイベントに関する情報収集

(4) 運営指導委員会の支援

① 運営指導委員会の構成員

氏名	所属・職	備考
白戸 洋	松本大学総合経営学部 観光ホスピタリティ学科・教授	学校教育に専門的知識を有する者
岸 清美	白馬ロータリークラブ・会長 オーブス株式会社・代表取締役	地域学校協働活動を推進する者
平塚 茂雄	白馬山麓事務組合・総括兼支援局長	関係行政機関の職員
伊藤 まゆみ	白馬村議会・議員	地域学校協働活動を推進する者
中村 邦彦	長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課・指導主事	関係行政機関の職員

② 活動日程・活動内容

活動日程	活動内容
・令和元年11月14日	第1回会合 <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティとの接点について協議し，テーマ型コミュニティおよび地区型コミュニティにおける地域課題の発見・解決のアプローチの仕方について指導する。 ・今後のカリキュラム策定に向けた可能性について協議（地域との接点や学習課題の模索等）
・令和2年3月27日	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回会合 ・今年度の事業報告から，成果と課題について協議 ・来年度の事業計画について授業展開について意見交換

(5) 管理機関における取組について

① 管理機関（コンソーシアム含む）における主体的な取組について

(ア) 運営指導委員会の開催（4）②参照

研究開発関連授業の参観，取組の概要説明，意見交換及び指導

(イ) 「探究的な学び」研究会の開催

（令和元年9月3日 長野県総合教育センター）

新学習指導要領の先行実施により，本年度から「総合的な探究の時間」が実施されていることを受け，各校の探究をさらに深めるため，長野県内の高校の取組の実践を紹介し，効果的なカリキュラム編成に資することを目的に実施。

(ウ) SH校フォーラムの開催（令和元年11月15日 長野 TOIGOにて開催）

文部科学省事業指定（SGH、SSH 地域協働等）校の高等学校長を中心に構成する会議。分野を越えて，各パイロット校がその研究開発の成果を相互に報告・共有し，カリキュラム研究開発の水準をさらに高めるとともに，事業内容の向上を図った。

(エ) 地域協働学習実施支援員の配置

県の「カリキュラム編成支援事業」により，地域協働学習実施支援員を配置

② 事業終了後の自走を見据えた取組について

(ア) 予算措置

地域協働学習実施支援員やコンソーシアム開催等，事業継続のための予算措置を図る。

(イ) 「SH校フォーラム」，「探究的な学び」研究会等の開催

文部科学省事業指定（SGH、SSH 地域協働等）校での研究開発の成果を相互に報告・共有することで，事業終了後も，成果を汎用性のあるものとして他校へも広く紹介し，県内の高校の探究的な学びの質の向上に取り組む予定。

③ 高等学校と地域の協働による取組に関する協定文書等の締結状況について

令和元年度に新たに締結したものはない。

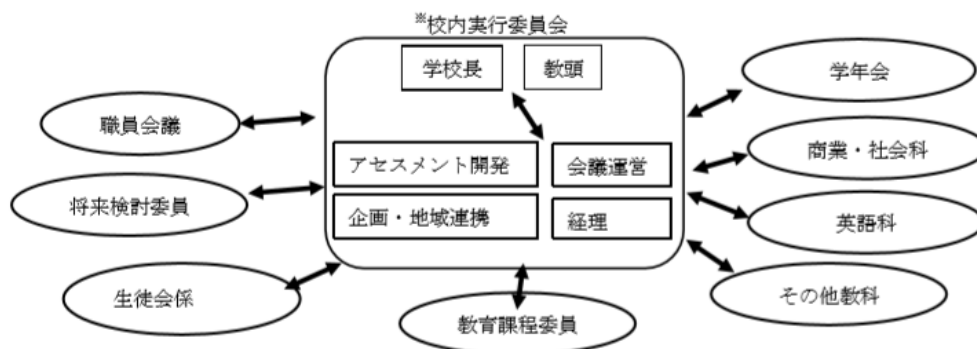
7 主な研究開発の実績報告

(1) 実施日程

実施項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
科目「観光Ⅱ」における教科横断型PBL	←		→			←						→
白馬SDGsラボの設立・ワークショップ開催			←	→		←	→			←	→	
コンソーシアムの構成団体との共同事業			↔					←	→			
運営指導委員会								↔				↔
校内実行委員会		↔		↔		↔		↔		↔		↔

(2) 研究開発の実施体制の構築

- ① 地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントの推進状況



- ② 学校全体の研究開発の活動状況（教師の役割，それを支援する体制について）
授業の企画・実施・改善，教師の支援体制として，「Classi」を活用して教材，進捗状況などの情報共有を図る。

・先進校視察と研究会参加の記録

- 令和元年 6月 29日 地域魅力化プラットフォームみらい留学フェスタ
- 令和元年 7月 25日 26日 全国高等学校観光教育研究会
- 令和元年 10月 6日 学びの県づくりフォーラム
- 令和元年 11月 6日 7日 和歌山大学
- 令和元年 12月 25日 飯田 OIDE 長姫高校「地域人教育成果発表会」
- 令和 2年 2月 26日 ニセコ高等学校視察

③ 評価・検証

- ・ 学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善した。
- ・ 授業アンケート，学校生活アンケート，高校魅力化評価システムアンケートの結果を基に校内実行委員会で計画の修正・改善を行った。
- ・ 本事業運営指導委員会，および学校運営協議会でアドバイスをもらい計画・方法を改善した。

④ カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組

- ・ コンソーシアム構成団体と協働した授業の実施
高校生レストラン…白馬東急ホテル
高校生ホテル…ホテルシェラリゾート白馬
白馬 SDGs ラボ…白馬インターナショナルスクール準備財団
- ・ コンソーシアム担当者会で情報共有と次年度事業の計画

IV 取組内容

○ 研究を通して実証する仮説

仮説 1 : 「学際的な教科横断型の学びと PBL が両立したカリキュラムを開発し, 生徒が主体的に学びたくなる環境の整備を行うことで, 探究的な学びが深まる。」
仮説 2 : 「生徒と地域の人々が SDGs をテーマに学び, 実践活動を行う『白馬 SDGs ラボ』の設置と SDGs ワークショップの開催, 及び SDGs の目標 13『気候変動を軽減させる取組』の実践をすることが, 探究的な学びの実現につながる。」
仮説 3 : 「地域をフィールドにした学習活動を推進するための『白馬コンソーシアム』の設置により, 本プログラムに対する包括的な支援体制を組むことによって, 生徒の探究的な学びを深めることができる。」

1 観光Ⅱを中心にした教科横断型 PBL

(1)活動の前提となる仮説(仮説1, 仮説3に関わる項目)

- ① PBL の実践を通してのカリキュラム開発, アセスメント開発
- ② 国際観光科 2 年「観光Ⅱ」を中心にした教科横断型 PBL の実証実験事業

(2)年間を通しての目標

「お客さんが満足するサービスができるようになるために, 実務での実習を通して学ぶ」

【教科横断の視点】

観光・商業科分野・・・サービスの見えない部分について理解する

英語科分野・・・観光を通して地域の魅力を英語で外国人に伝えることができるようになる

家庭科分野・・・テーブルマナー, 食材の特徴について理解する

(3)PBL 授業実践 1 「高校生レストラン」の取組

- ① 本質的な問い
「白馬のグリーンシーズンの魅力を伝えるにはどのようにしたらよいか。」
- ② 内 容
白馬東急ホテルの 60 周年記念メニューを開発し, 一日限定のレストランを行う
- ③ 関連団体
白馬東急ホテル
- ④ 実施日
令和元年 6 月 22 日 (土)
- ⑤ 学習内容
4 月 9 日 オリエンテーション, 班分け
15 日 白馬東急ホテル 施設見学



4月16日 コース料理の構成についての学習

22日 地元食材調べ，コース料理開発

- ・有名レストランのコース料理を調べ，コース料理の構成を調べる。
- ・地域の旬の食材を調べ，コース料理の原案を考える。



4月23日 白馬東急ホテルの料理長にコースメニューの提案

5月7日 白馬東急ホテル料理長からコース料理の説明

- ・生徒が考えたコース料理の原案を料理長に提案する。
- ・料理長が，生徒の考えたコース料理をアレンジし，料理を提案。
- ・料理長が，学校でコース料理の試作をし，生徒が試食する。



14日 レストランサービスの基礎

27日 白馬東急ホテルでサービス接遇実習

28日，6月3日，4日，10日，17日，18日

- ・メニュー説明，サービス接遇練習
- ・白馬東急ホテルで実際の施設を使った練習
- ・本校で，白馬東急ホテルのスタッフによる練習



6月22日 高校生レストラン本番

- ・料理長、スタッフとの最終ミーティング
- ・テーブルセッティング、清掃などの開店準備



- ・お客さんへの料理の提供と説明
- ・コース料理の途中でのテーブルの清掃



- ・お客さんに感想を聞く
- ・お客さんも含めての全体撮影



⑥ 生徒感想

- ・白馬周辺の食材を調べると、食べることのできる花や山菜など多くの食材があることを知った。
- ・試食会では学校で料理長さんが目の前で料理をしている様子を見て、プロの手さばきはすごいと思った。
- ・サービスの実習では覚えることが多くとても大変だった。何回も繰り返し練習をして当日はなんとかやり遂げることができた。
- ・白馬東急ホテル全体の雰囲気にも高級感があり、そこでレストラン実習を行うことに少し緊張をした。

⑦ 成 果

- ・一般の来場者 50 名参加。
- ・ホテルのレストランを会場に、一般のお客さんを対象として、生徒が主体的に参加できた。
- ・ブリティッシュスクールイン東京の生徒（外国籍）と教員も参加し、英語でのサービス接遇を行った。
- ・レストランスタッフの事前、当日指導があり実習をスムーズに行うことができた。

⑧ 課 題

- ・評価項目について、教員の観察による評価を試みたが具体的な行動での評価が困難であった。
- ・教科間連携がうまくいかず、実習をこなすことで精いっぱいであった。特に家庭総合では1年で食物、2年で被服内容を中心に授業を行っているため、2年で被服の授業の中に食物に関する内容を行うことが難しかった。そのため、観光Ⅱで食に関する実習を家庭科の教員と実施するにとどまってしまった。お客さんの反応を見るためのアンケートを実施できなかった

(4)PBL 授業実践 2 「高校生ホテル」の取組

① 本質的な問い

「お客様が満足するサービスとはどのようなものか。」

② 内 容

大規模のホテルを借りて1泊2日のホテル業務を実習する。

白馬地域の体験ツアーを企画し、ガイドを日本語・英語で実施する。

③ 連携企業

ホテルシェラリゾート白馬

④ 実 施 日

令和元年 12 月 7 日（土）, 8 日（日）

⑤ 学習内容

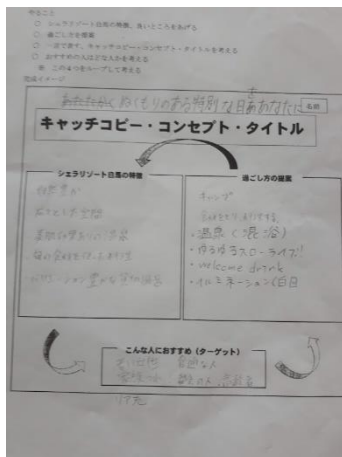
	観光Ⅱ	観光コミュニケーション英語
1 学 期	プロジェクト説明, 班分け ☆白馬東急ホテル施設見学 コース料理の構成を調べる (和食, 洋食) 地域食材, 旬の食材調べ, コース料理を 考える ☆コース料理を提案, 料理の試作, 試食 レストランサービスの基本について ☆サービス接遇レーニング メニューの説明事項の確認 ☆最終リハーサル	ツアーの接遇の英語 ☆スノーモンキーツアー実習 ツアーでよく使われる英語表現 ☆松本城ツアーガイド実習 レストランサービスの英語表現 ブリティッシュスクールイン東京の生徒 との交流事業の企画 (高校生レストラ ンを含めた交流)

	☆高校生レストラン	
2 学 期	☆シェラリゾート白馬施設見学 ホテルのサービスについての学習 ☆テーブルマナーとレストランサービ ス実習 ☆ホテルの仕事（フロント，レストラ ン，客室）についての学習 宿泊プランの学習，宿泊プラン作り ☆サービスの心構え（サービスをする 上で大事にしていること） ☆ホテルでのサービス接遇トレーニン グ（フロント，レストラン，客室） ☆高校生ホテル	☆白馬村内の観光資源調査 外国人向け白馬村内ツアーを企画，プ レゼンテーション フロント，レストラン業務の英語対応 の練習 ☆外国人向け白馬村内ツアーと高校生 ホテル
3 学 期	宿泊業，ホテルの歴史，サービスの意義 について	日本の文化，風習を英語で表現する

- ・シェラリゾート白馬施設見学
- ・フロント，客室などの説明を聞く



- ・宿泊プラン，滞在のアイデアを考える。地元の中学生と一緒に考える。



- ・フロント業務の事前学習
- ・チェックイン、チェックアウト時の説明事項の確認



- ・レストラン業務の事前学習
- ・お客さんの誘導、料理の提供の動線の確認



- ・客室整備の事前学習
- ・ベッドメイキングのやり方の練習



- ・昨年度の高校生ホテルを実施した宿泊施設の支配人によるサービスの心構えの講義
- ・本年度実施施設の支配人による講義



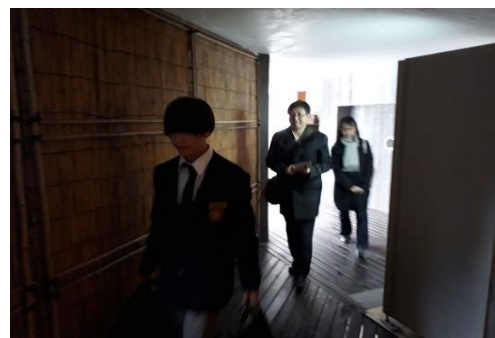
- ・ ツアーの事前学習
- ・ 外国人対象の模擬ツアーを体験
- ・ 自分たちで白馬村内の魅力を探し、 ツアープランを企画



- ・ 高校生ホテル当日の準備
- ・ エントランスの雪かき
- ・ レストランの开店準備



- ・ フロントでのチェックイン業務
- ・ 客室への案内



- ・ レストランでのサービス業務



⑥ 生徒感想

- ・ 高校生ホテルを実践して良い経験をしたと思いました。ホテルのレストランの仕事の大変さと楽しさを感じ、多くのことを学ぶことができました。
- ・ 当日、始まる前はプレッシャーでいっぱいでしたが、振り返ると、十分に仕事をすることができたと思います。
- ・ ホテルの仕事はけっこう体力を使いますが、とてもやりがいがあり、自分に向いているかもしれないと思いました。
- ・ 大変さ、難しさもありましたが、本番のレストランの仕事をしている時間はあっという間に過ぎて、終わったあとにとっても達成感がありました。

⑦ 成 果

- ・ 白馬ツアー参加者 18 名、ホテル宿泊者 109 名が参加。
- ・ ツアーガイドとホテル業務を「英語」「観光Ⅱ」の複数の教科から学際的に学び、実社会の職場を利用した実践的な授業となり、学びの目的が明確になった。
- ・ アンケート調査の結果県内外から訪れた一般宿泊客は、高校生が主体的に学ぶ本実習プログラムに対して高く評価した。また、単なる実習としてではなく、職業人としての責任を果たそうとする高校生のもてなしを受け、リゾートホテルでの有意義な時間を過ごすことができた。

⑧ 課 題

- ・ 最上級のサービス実務を実践的に学ぶことができた。この貴重な学びをさらに深い知的探究につなげていくことが、次年度以降の課題であると思われる。

⑨ 高校生ホテルお客様アンケートの結果

ア フロント・客室案内について

案内や説明が十分だった	89.2%
案内や説明に不足があった	10.8%

改善についてのコメント

- ・ 本職と比較するともう少し勉強，研修が必要だが，真剣な思いが伝わってきた。
- ・ もう少し大きな声ではっきりと話す，自信を持って。

イ レストランサービスについて

丁寧なサービスだった	64.2%
不安のあるサービスだった	35.8%

改善についてのコメント

- ・ 自信がないと思うのですが，もう少し声を大きくはっきりと出して欲しいと思いました。
- ・ 料理の向きやカップの置き方。
- ・ 皿を置く音がややおおきかったかな。

ウ アンケート結果からの考察

アンケートの結果お客さんに満足するサービスの提供がおおむねできたといえる。宿泊者の属性も保護者，教育関係者以外の一般のお客さんがほとんどであったため，通常のホテルサービスとの比較した回答が得られた。自由記述のコメントには，生徒のサービスに対する激励の温かいコメントが多く寄せられたことから，実務としてのサービスの評価の部分と「がんばる高校生」というバイアスがあることが推測された。

高校生ホテル後の振り返りの際に，アンケートに書かれたコメントを生徒が読み，自分たちの実習を客観的に振り返ることができた。その際に，お客さんからの温かいコメント，改善ポイントを真摯に受け止めているように感じられた。

2 3年総合学習，学校行事において，SDGs を活用した探究学習の実践

(1)活動の前提となる仮説（仮説1，仮説3に関わる項目）

- ① PBL の実践を通してのカリキュラム開発，アセスメント開発
- ② 総合的な学習の時間と学校行事を組み合わせた教科横断型 PBL の実証実験事業

(2)実践内容

① 内 容

「SDGs」をテーマにした探究学習を総合的な学習の時間と学校行事を組み合わせて実施する。

② 授業内容

4月23日 グローバル講演会 「パタゴニアが考える企業の責任」
パタゴニア日本支社・支社長 辻井隆行 氏



6月5日 総合的な学習の時間 SDGs ワークショップ
環境アクティビスト 清水イアン 氏
・SDGs の基本についての講義
・17の目標から一つを選んで理想の姿を考える



7月5日～7日 文化祭でSDGsをテーマにした展示



10月1日～3日 総合的な学習の時間 SDGsのワークショップ

- ・17の目標から一つを選んで、現状の危機を他者に伝える。



③ 成果

- ・既存の授業と学校行事に関連性を持たせることができた。
- ・年間を通じてSDGsについて授業や学校行事で取り扱うことで、生徒はSDGsについて関心が高まった。また大学のAO入試や推薦試験の事前のレポート課題や面接で話題になることもあり、生徒の学ぶ動機づけにもなった。

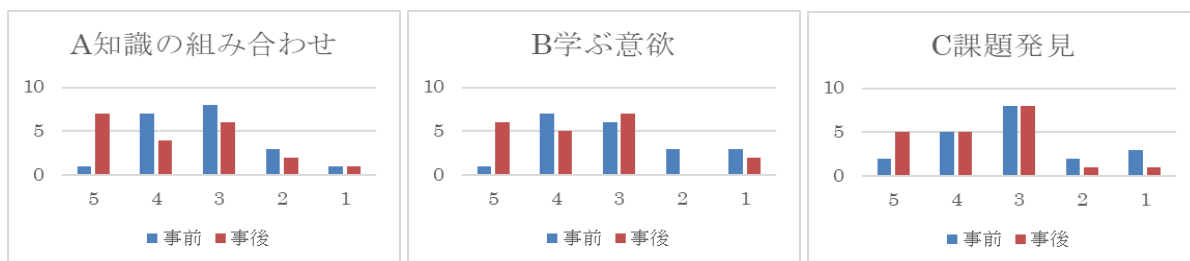
④ 生徒に付けたい力の評価について

評価項目

- A 知っていること、学んだことを組み合わせて新たなことを考えたり、作り出したりすることができる。
- B 学ぶことに意味や意義、やりがい、面白さ、楽しさを見出し、自ら進んで学習を進めることができる。
- C 現在起こっている状況を構造化することができ、どのような課題があるかを見つけることができる。

⑤ 成果・評価

本授業では、社会課題について学ぶことで課題解決能力を育成することを目的とした。SDGsをテーマに現状を調べ、まとめて、発表することを行った。授業の前後で5段階による自己評価によるアンケートをGoogleフォームで実施した。その結果、A知識の組み合わせ、B学ぶ意欲、C課題発見ともに、事後に評価5の生徒が増加した。



3 3年国際観光科「グローバル観光」

(1)活動の前提となる仮説（仮説1，仮説3に関わる項目）

- ① PBLの実践を通してのカリキュラム開発，アセスメント開発
- ② 授業で地域課題について調査，考察するPBLの実証実験事業

(2)内 容

① 授業目標

地域課題の構造化し解決策を考える「白馬を豊かな地域にするには？」

② 授業内容 ☆コンソーシアム構成団体（白馬村）による授業

	授業内容
1 学 期	<p>経済波及効果について</p> <p>☆白馬村の地域経済循環について 講師 藤本元太 副村長</p> <p>☆産業連関表作成のためのアンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設を中心に聞き取り調査 <p>聞き取り調査結果のまとめ</p> <p>白馬村観光統計の分析</p>
2 学 期	<p>調べ学習1：インバウンドの光と影を調べてまとめる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・外資系ホテルが日本に多く進出するのはなぜか ・白馬地区の地価の変動はどのような影響を与えるか ・観光客の増加によってどのような地域に与えるマイナスの影響は何か <p>調べ学習2：RESASを使って白馬と他の地域を比較する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・京都，ニセコとの比較 ・産業の構造
3 学 期	<p>既存資料調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・白馬村に外国人旅行者が多く来るようになった理由 ・ビジットジャパンキャンペーンについて

- ・白馬村副村長による白馬村の地域経済循環についての講義
- ・地域経済循環について
- ・白馬村の観光客数の推移



・ 宿泊施設の聞き取り調査と調査内容のまとめ



4 「白馬 SDGs ラボ」の取組

(1)活動の前提となる仮説（仮説2に関わる項目）

- ① 地域の人と活動する場である「白馬 SDGs ラボ」の設置
- ② 地域の人と一緒にプロジェクトを実践する

(2)内容

① 概要

地域の有志により設立された「白馬 SDGs ラボ」に生徒が参加し、地域の大人の協力を得ながら活動を行った。ここでの活動を通して、生徒は気候変動の危機を多くの人に理解をしてもらうための行動として、「グローバル気候変動マーチ in 白馬」を企画し、約 120 名の参加者を集めた。

② 実施内容

第1回 日 時 6月4日 18時～20時

会 場 藤屋食堂

参加者 53名

内 容 SDGs ワークショップ

講師 環境アクティビスト 清水イアン 氏

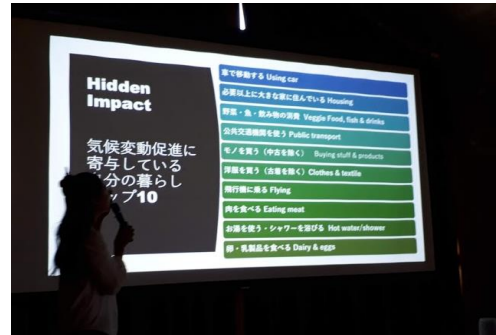


第2回 日時 7月14日 16時～18時

会場 ノルウェイビレッジ

参加者 40人

内容 気候変動ドキュメンタリー映画 「Signs From Nature」 上映会



グローバル気候変動マーチ in 白馬

日時 9月20日 17時～18時

会場 白馬駅前から白馬村役場

参加者 120人

内容 気候危機を「他人ごと」ではなく「自分ごと」にするために、マーチを企画し、白馬村に「気候非常事態宣言」を起こしてもらいたいをする。



第3回 日 時 11月21日 18時～20時

会 場 藤屋食堂

参加者 28人

内 容 ① 24Hours of Reality in Hakuba

元米国副大統領アル・ゴア氏のクライメートリアリティプロジェクト提唱する「世界中で気候変動の真実を伝える24時間」として、このプロジェクトのトレーニングプログラムに参加した地域の人のプレゼン。

② 本校生徒のグローバル気候変動マーチ in 白馬の報告 など



Hakuba ×Action “Haction” ～気候変動による難民のためのチャリティー

日 時 11月30日 11時～14時

会 場 Aコープ白馬店駐車場

内 容 気候変動による難民のためのチャリティーバザーと白馬村に「気候非常事態宣言」を求める署名活動をし、後日、白馬村長に渡した。



高校生によるエコ活動コンテスト「イオン エコワングランプリ」

日 時 12月7日

内 容 グローバル気候変動マーチの取組内容についての発表

結 果 文部科学大臣賞



第4回 日 時 1月29日 18時30分～20時30分

会 場 藤屋食堂

参加者 30人

内 容 SDGsの「3すべての人に健康と福祉を」をテーマに村内の取組内容についての情報共有

- ① 「持続可能な国民皆保険制度のためにできることとは？」

発表者 白馬村役場の保健師

- ② 現代において人が暮らすための「衣食住」が「医食住」に変化したことや、健康的な視点から考えた20年後の豊かさなどについて提起

発表者 村内クリニック勤務の方

- ③ 「みんなを笑顔に食べ物ワールドカード」というテーマで、観光地ならではの「食」に関するプレゼンテーション

発表者 白馬高校1年生



気候変動マーチ in 白馬岩岳スノーフィールド

日 時 2月2日 11時～11時30分, 14時～14時30分

会 場 白馬岩岳スノーフィールド

参加者 延べ120人

内 容 気候変動対策の必要性に関心を持ち、行動に移してもらうきっかけになるように、スキー場での気候マーチを開催

① 気候変動に対するメッセージを書いたプラカードを作成する。

(自宅で作成したものを持ち込む、または、イベント当日に岩岳山頂スカイアークで作る)

② 午前11時・午後2時にプラカードを持ってスカイアーク前に集まり、5線サウスゲレンデをみんなで一斉に滑る。

③ プラカードを持って滑っている写真に[#haction](#) [#SaveOurSnow](#) のハッシュタグを付けて、SNSに投稿する。



UNHCR (国連高等難民弁務官事務所) の訪問

日 時 2月7日

内 容 ① 11月30日に開催した「気候難民のためのチャリティーバザー “Haction”」の収益を難民に届ける。

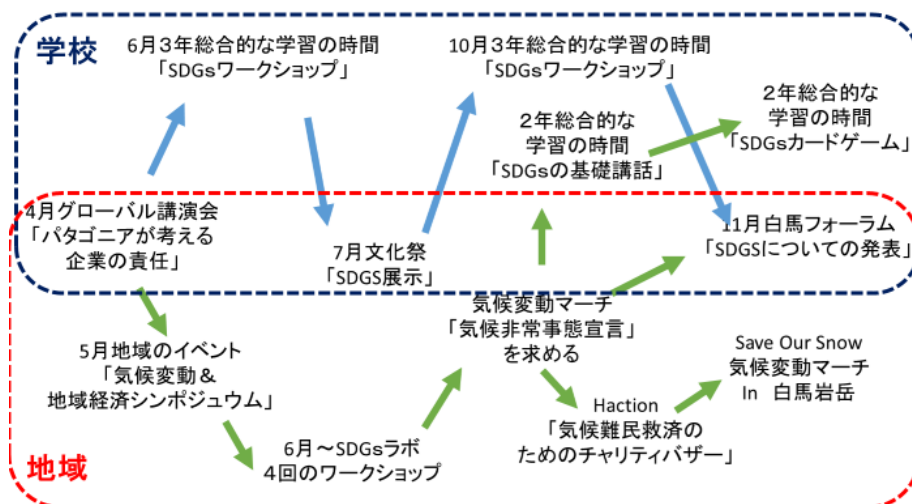
② 難民の現状についての学習



(3) 成 果

- ・ マーチの後に、白馬村役場で白馬村長に対して気候変動非常事態宣言についての PR 活動を行った。
- ・ 気候変動難民救済のためのチャリティーバザー「Haction」を企画し、15 万円の売上金を国連 UNHCR 協会へ寄付を行った。
- ・ 高校生が環境問題に取り組むエコ活動の成果を競う AEON 主催「eco-1 グランプリ」に出場し、文部科学大臣賞を受賞した。
- ・ 白馬村が 12 月 4 日、長野県が 12 月 6 日にそれぞれ「気候非常事態宣言」を発令した。地域の有志の人々が生徒の身近ことから社会問題に関心を持たせ、支援してくれたことにより社会の動きと大きく関連した学びを実現できた。
- ・ 地域で環境問題の啓発を実践する生徒が、学校内でも啓発活動を行い、SDGs に関するワークショップを企画した。講師の選定、連絡調整を教員とともにを行い、2 年「総合的な学習の時間」で 11 月 15 日に講演会、12 月 4 日にワークショップを実施し、この中で、主体的に他の生徒に活動内容を普及した。

5 学校と地域との連携した取組例



4月23日	グローバル講演会（学校行事・地域への公開）
5月18日	気候変動&地域経済シンポジウム（地域の団体が主催，生徒が参加） 基調講演「持続可能で幸せなまちをつくる」環境ジャーナリスト枝廣淳子氏
6月4日	Hakuba SDGs Lab キックオフミーティング（地域の団体主催，生徒参加）
6月5日	3年生 第1回 SDGs 探究学習（総合的な学習の時間） SDGs について知るワークショップ 講師 環境アクティビスト 清水イアン 氏
7月14日	第2回 Hakuba SDGs Lab ラボ（地域の団体が主催，生徒参加） Signs From Nature 上映会
9月20日	グローバル気候変動マーチ in 白馬（生徒が主催，地域の人が参加）
11月15日	2年生 SDGs 探究学習（総合的な探究の時間・有志生徒の企画） SDGs の基礎講話 講師 環境アクティビスト 清水イアン 氏
11月21日	第3回 Hakuba SDGs Lab（地域の団体が主催，生徒参加） 24Hours of Reality in Hakuba
11月30日	Haction（生徒が主催，地域の人が参加）
12月4日	2年生 SDGs 探究学習（総合的な探究の時間・有志生徒の企画） SDGs カードゲーム 講師 2030 SDGs ファシリテーター 関口守 氏 澤西光子 氏
12月7日	イオン eco-1 グランプリ（生徒が学びの成果を発表） 文部科学大臣賞
2月2日	Haction 第2弾（生徒と地域の団体が主催，地域の人が参加） #Save Our Snow-気候マーチ in 白馬岩岳スノーフィールド
1月29日	第4回 Hakuba SDGs Lab（地域の団体が主催，生徒参加） 地域での SDGs に関わる活動の事例発表
2月5日	国連 UNHCR 協会へ寄付

○ 仮説検証のための取り組みをより効果的にするための単発的な活動

1 学びの土壌作り チームビルディング実践

(1) 対象授業

3年国際観光科 LHR

(2) 内容

- ① 文化祭を通じた協働性の育成
 - ・意識付け じゃんけんトレイン
 - ・協働活動① 合唱コンクール
 - ・協働活動② 展示物作成



- ② チームで協働して、最適解を見いだす
 - ・ブラインドスクエア
4人1組で目隠しをした状態で長いロープを使い長方形や正方形など指定された形を作る。
 - ・ブラインドピンポンリレー
2人1組で1人が目隠しをした状態でスプーンにピンポン球を乗せ、もう一人が声をかけながらサポートをして、指定されたコースを歩く。
 - ・フェルミ推定
論理的な思考力を高めるエクササイズ。問題解決に際して結束力を高める。
数人チームに分かれ20～30分かけて正解を導きださす。
直感ではなく、論理的に答えをだす。
 - ・コンセンサスゲーム
全員の合意形成を図りながら、人それぞれのものの考え方や価値観の違いを知り、
協働作業や対立解消のポイントを学ぶ。



2 大学生と学ぶ PBL 合宿

(1)趣 旨

白馬高校は県外からの入学者が多くいることもあり、高校を卒業後、進学や就職で白馬村を離れてしまう学生が多いという現状がある。その現状に対して白馬村の次世代を担う若者が将来、白馬に戻ってきて、住みたいと思う高校生を増やす必要がある。そのためには、高校生が地域を見直すことが大切である。魅力に気がついていないことが白馬村に愛着と帰る理由がない一つの要因になっているのではないだろうか。そこで、改めて時間をかけて何気なく過ごす地域をみでみることで、白馬の魅力を見直し、再発見していく。

(2)内容

日にち 8月7日

会 場 白馬高校化学室

- 10:00～10:05 開会挨拶
- 10:05～10:15 PBL 合宿について
- 10:15～10:30 アイスブレイク（自己紹介）
- 10:30～11:30 インプット①「地域の魅力を発信しよう」
法政大学教授 藤代氏
- 11:30～12:30 ワーク（行ったことないマップ作り）
- 13:30～14:30 インプット②「写真の撮り方・写真の編集」
フリーフロート屋田 氏

写真の撮り方講座（60分）座学・ワークショップ。教室の中でなくてもOK。課題や魅力を見える化し発信する際に役立つ写真技術。「みる」視点。スマートフォンでできること。

- 14:30～14:40 休憩
- 14:40～16:00 フィールドワーク

日にち 8月8日

会 場 白馬高校

- 9:00～10:00 インプット③「街歩きを学ぶ～トマソン理論～」60分【新先生】
トマソン理論：面白い解像度、技術を学ぶ。フィールドワーク（散歩）の方法、楽しみ方を学ぶ。白馬の魅力に気づく&課題に気づくマインドを育む。
- 10:00～12:00 フィールドワーク（写真を撮る・インタビューする）
班ごとに調査・インタビュー先の選定（じもトークにリンク）
- 13:00～ 会場 白馬ノルウェーヴィレッジ
・地域の魅力を伝えるメディアづくり
- 15:00～ 発表会、講評
『魅力、知らなかった場所・こと・人』を伝える
- 16:30～ 閉会

インプット①「地域の魅力を発信しよう」



インプット②「写真の撮り方・写真の編集」の講義と実践



発表会



3 校外におけるボランティア活動

- 5月19日 長野県産の酒米を地域の人たちと育てて醸造し、地域の名産品にする取組においての「酒米田植え」に参加。
- 6月10日 グリーンシーズンの誘客のためのサイクリングイベント。雄大な北アルプスを眺めながら、村内の名所を最大限に生かしたコース、エイドステーションでは白馬のグルメを提供するイベントに参加。
- 7月13日
～8月31日 グリーンシーズンの誘客のための「白馬花三昧」のイベントに合わせて、白馬駅において、特急列車、快速列車到着の際のお客さんのお出迎えともてなしを行うイベントに参加。
- 8月31日
～9月1日 白馬村民運動会に参加し場内アナウンスや会場準備を行った。
- 9月21日 「白馬村を車いすスポーツのメッカにしよう」というコンセプトのもとで行われるイベント。今年度は車いすソフトボール大会が開催され運営スタッフとして参加した。
- 10月5日 長野県産の酒米を地域の人たちと育てて醸造し、地域の名産品にする取組においての「酒米稲刈り」に参加。
- 10月12日 白馬南小学校 PTA 祭りにボランティアスタッフとして参加。
- 1月23日、30日 白馬に来る外国人旅行客のアフタースキーのイベントとして行われている岩岳夜祭に神社の参拝のレクチャーを英語で行うボランティアとして参加。
- 2月1日、2日 日本交通公社の白馬村来訪者調査で外国人旅行者にアンケート調査を行う調査員として参加。
- 3月24日 ボランティア活動などの地域への関わりから、第7回信州おもてなし大賞で特別奨励賞受賞。



4 デュアル実習

(1)実習概要

3学年の男子2名、女子2名の実習生徒が、白馬村内の4つの企業でデュアル実習をおこなった。実習については、4月30日～8月25日の期間内に、平均57.8時間おこなった。単なるアルバイト的な内容ではなく、接客や販売にとどまらず、企画や人事、経営の現場まで広く、深く経験することで観光業についての理解を深めることを学習の目的とした。具体的な学習については、以下のとおり。

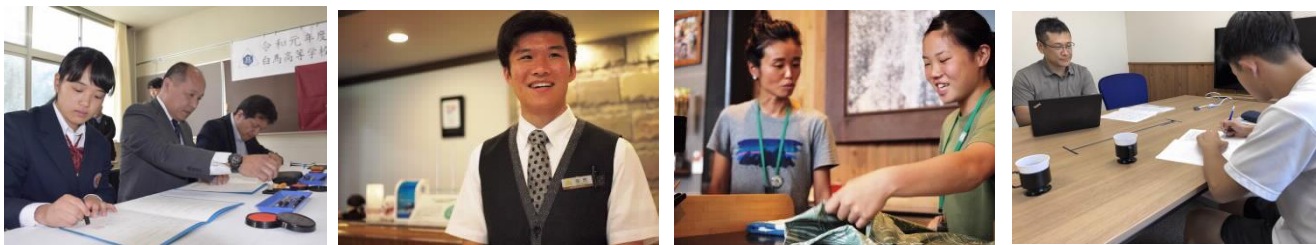
- ① 2単位（70時間）での履修となるので、校内で10～14時間（50分単位）を開講する。
- ② 座学は、事後の成果発表会（11月1日実施のはくばフォーラム）準備と発表会も含む。
- ③ 6月17日（月）午後3時30分に、生徒・企業・学校の三者による協定調印式を実施した。

場所：本校会議室

- ④ 成果発表会（はくばフォーラム）は、11月1日（金）に企業・保護者を招待して実施した。
- ⑤ 評価については、企業担当者からの評価と校内での座学の評価により総合的におこなった。
- ⑥ 受け入れいただいた企業は、次の各事業所です。

白馬観光開発株式会社 白馬東急ホテル 株式会社シェラリゾートホテルズ パタゴニア白馬店

(2)調印式および実習の様子



(3)生徒の感想

- ・白馬高校を卒業後にホテルへの就職を考えていて、デュアル実習に応募しました。ホテルでの仕事に就いて、内容や仕事の厳しさについても勉強することができました。（シェラリゾートホテルズ）
- ・企業の経営理念についても教えていただき、商品の販売ひとつにも、企業理念が行かされていることを知り驚きました。卒業後は、白馬村の観光業に就職して自分のスノーボーダーとしての目標を実現していきたいです。（パタゴニア白馬店）
- ・アルバイトのように、ひとつの仕事だけではなく、現場から管理的な事務仕事まで幅広く体験することができました。大学卒業後に、白馬村に戻って観光業に就職するための動機づけになりました。（白馬観光開発株式会社）
- ・ベル業務、フロントやレストランの業務などホテルの業務について幅広く体験させていただきました。お客様やホテルのスタッフの方とのコミュニケーションをとることが、これほど大変で、これほど大切なことかと、実習を通じて知ることができました。大学卒業後は、ホテルマンを目指したいと考えています。（白馬東急ホテル）

(4)成果と課題

地元観光関連企業についての理解と関心を深め、地元観光産業に就職することを第一の目的として、第二の目的としては、上級学校のAO入試等で、実際の経験や研究を活かすことも、当初より想定していました。二期生のデュアル実習では、2名の生徒が実習内容を活かして、大学入試に取り組んでいます。また、1名の生徒が全国的なホテルチェーンに内定、1名の生徒が地元観光業界へ採用されることになりました。

5 活動の考察

チームビルディングは、学習を行う上での心理的な安全を確保する環境づくりを目的に行った。じゃんけんリレーやブラインドスクエア、ブラインドピンポンリレーといったゲーム要素のある協働性を高める活動であった。フェルミ推定やコンセンサスゲームは異なる意見を持ったメンバーでの合意形成を図るものであり、対話を促す活動であった。

チームビルディングやグループ学習を行う際に、教員一人で複数のグループの活動の活性化を促す支援をすることには限界がある。各グループにファシリテーターがいると活動がより活性化される。

「大学生と学ぶPBL合宿」では、高校生と年の近く、グループ学習の経験値があり、生徒の半歩前に行く大学生と活動することができた。これにより、大学生がグループ学習のファシリテーターとなりグループでの活動をより活発になった。また、活動において大学生の視点が加わることで、学校での授業で行うより多様な視点が増えるという効果があった。

より多様な視点を持つためにボランティア活動やデュアル実習で、実社会での活動を通して、社会との関わりを持つことができた。

今回の活動は、単発的な内容であったが、校内での活動、大学生との活動、地域での活動という3つのタイプを結びつけていくとより効果的な学習になることが予想される。特に校内の活動と校外で地域社会に興味・関心を高め、実際に地域で活動する大人と関わりを持って活動をしていく道筋を作っていくことが必要である。

V 評価・次年度への課題

1 目標の進捗度

本構想において実現する成果目標に関する項目（アウトカム）

a：地域課題解決のためのプロジェクト学習の実施回数

本事業対象生徒 2回

2年国際観光科 「観光Ⅱ」を中心にした教科横断型 PBL「高校生レストラン」「高校生ホテル」

3年国際観光科 総合的な学習の時間、学校行事において、SDGsを活用した探究学習
本事業対象外生徒 1回

3年普通科 総合的な学習の時間、学校行事において、SDGsを活用した探究学習

b：高等学校卒業時の地元就職率

本事業対象生徒

3年国際観光科 9%（33人中3人）

本事業対象外生徒

3年普通科 14%（35人中5人）

地域人材を育成する高校としての活動指標（アウトプット）

a：地域課題解決のための実践をとまなう政策提言を行った件数

1件

白馬 SDGs ラボで活動した生徒3名が白馬村に「気候非常事態宣言」の発令を求める提言

b：生徒が地域をフィールドにした学習活動に関わる内容について校外の方を対象に発表、報告を行った回数

3回

白馬フォーラム

学校での地域の方を招いた学習成果発表会

長野県「わたしのプロジェクト」

長野県教育委員会主催の県内の高校生対象の発表会

白馬 SDGs ラボ

地域の方を中心にした SDGs に関する学習会

地域人材を育成する地域としての活動指標（アウトプット）

a：白馬 SDGs ラボの地域の方の参加人数

延べ 136人

第1回 6月4日 53人

第2回 7月14日 25人

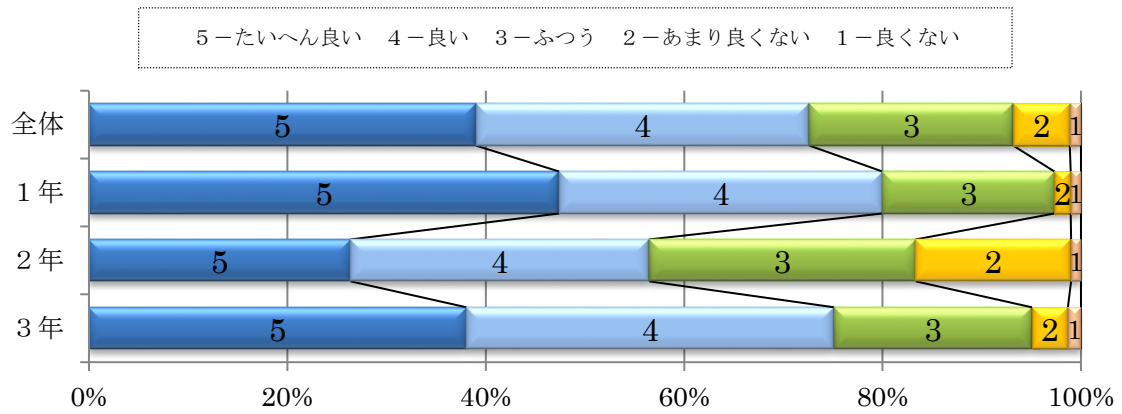
第3回 11月21日 28人

第4回 1月29日 30人

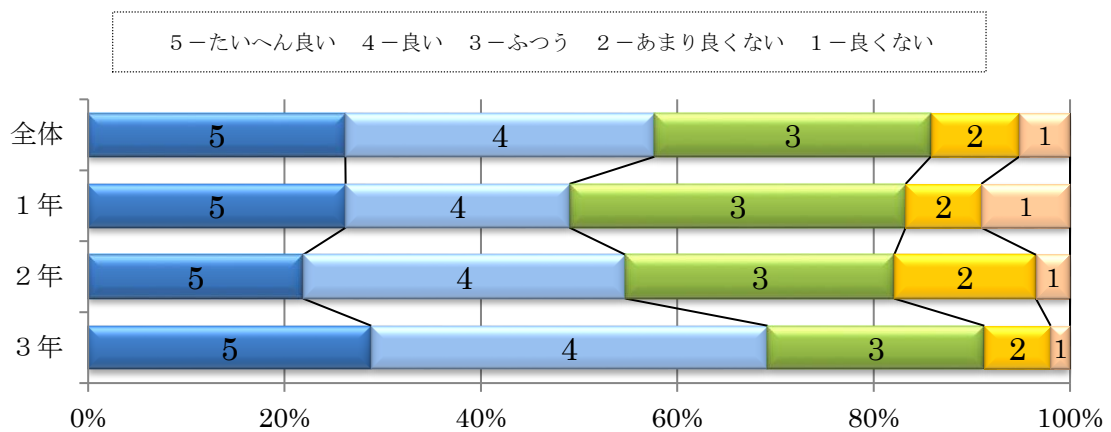
2 学校評価（令和元年度）

(1) 授業評価（生徒対象）

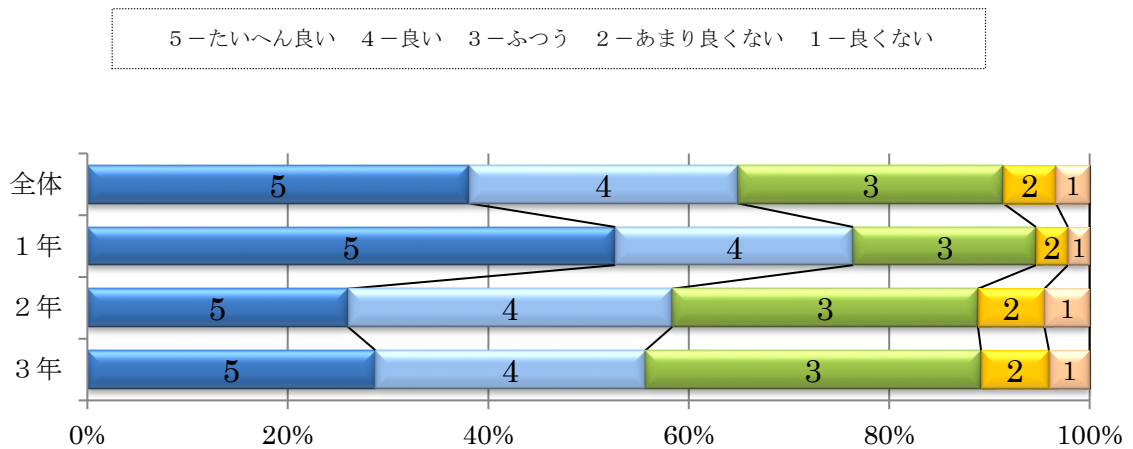
① 自分は授業に集中し、意欲的に学習に取り組んでいる。



② 授業の進度や難易度は、自分にとって適切である。

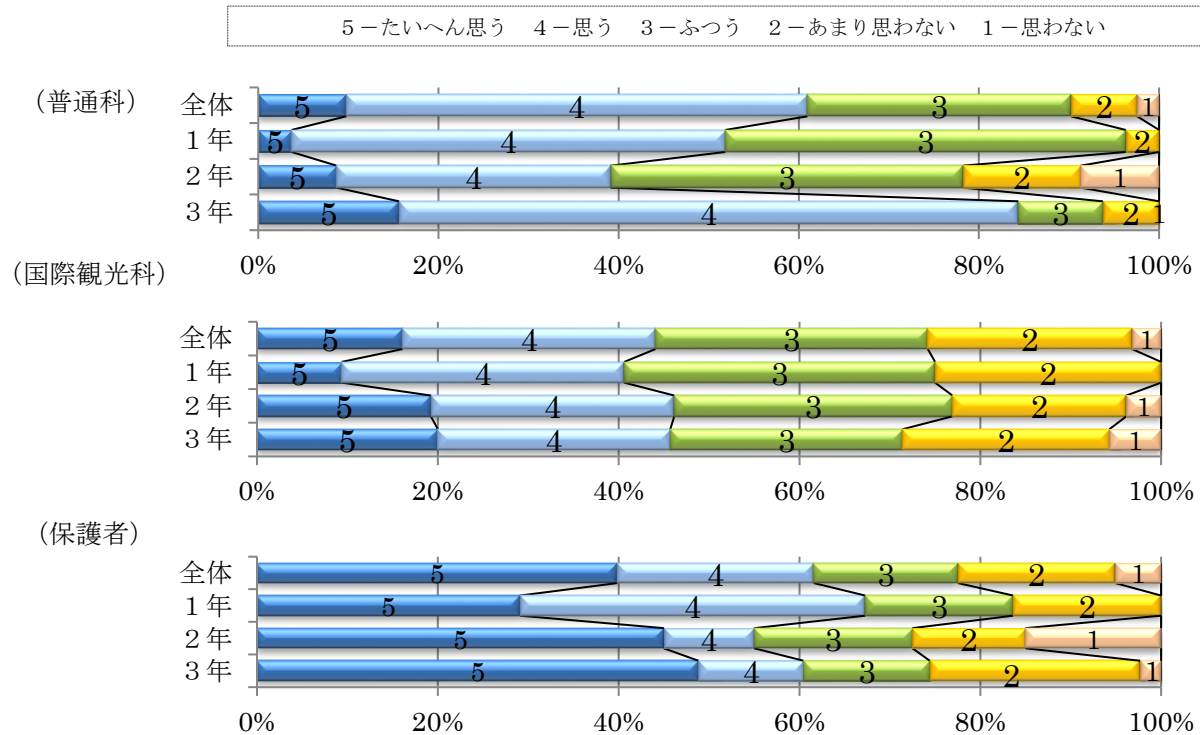


③ 先生は生徒の興味関心や学習意欲を高める工夫をし、分かりやすく充実した授業を行っている。

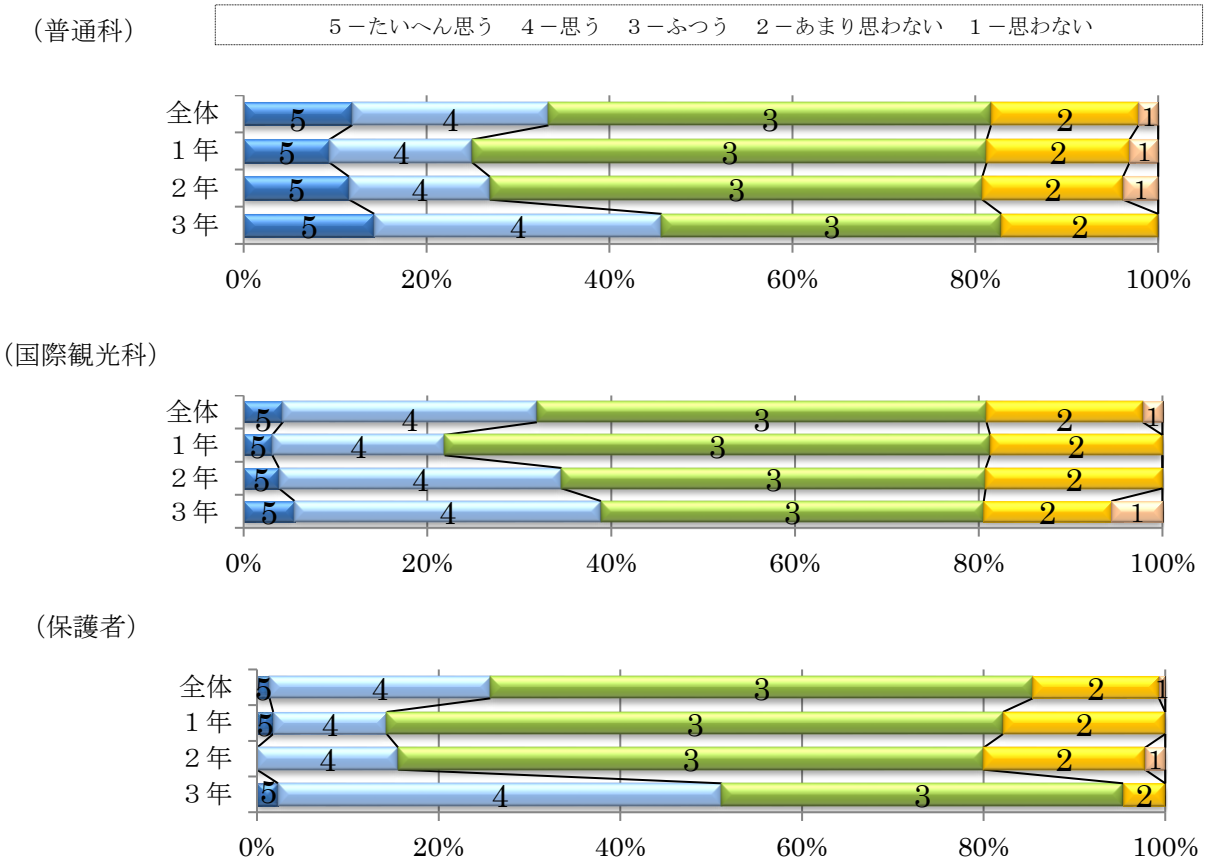


(2) 学校評価 (生徒・保護者対象)

①地域の資源を最大限に活用した魅力ある教育活動がおこなわれていると思いますか。



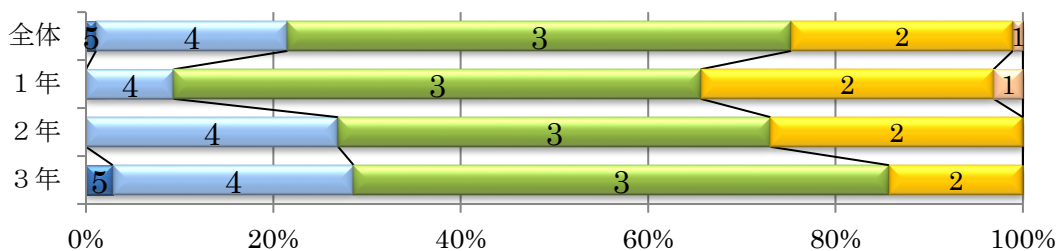
②教職員は一人ひとりの生徒を大切にし、クラスや学校が楽しく安全で安心できる場所になるように努力していると思いますか。



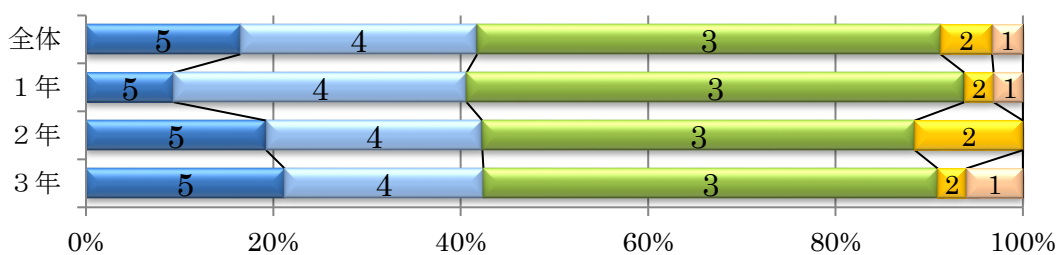
③一人ひとりの生徒に主体的に行動する力を育てる学習活動がおこなわれていると思いますか。

5-たいへん良い 4-良い 3-ふつう 2-あまり良くない 1-良くない

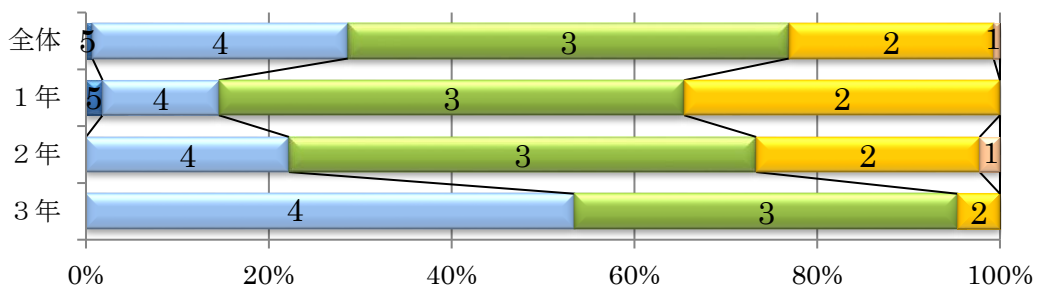
(普通科)



(国際観光科)



(保護者)



3 次年度以降の課題及び改善点

(1) 教科横断型 PBL 授業における「育てたい生徒観」や「生徒につけたいスキル」

「高校生レストラン」や「高校生ホテル」では、サービス実務を行うことに強い関心を示し、この点では地域を利用した教科横断型の授業がうまく機能していたといえる。「創造的思考スキル」や「協働スキル」、あるいは「コミュニケーションスキル」のある生徒像を意識して授業を展開したが、検証に時間を十分に割くことができなかった。次年度においては、プロジェクトでつけたいスキルをあらかじめ明確にした上で、それぞれの活動と、生徒が獲得したスキルとの関連性や効果の検証を行いたい。

(2) 探究学習に対する教員のさらなる向上

校外での実習では、探究的な学びや、PBL を行うための授業の設計、授業内容、教材、評価システムなど新たに構築するものが増加した。また、実習先でもあるコンソーシアム委員との授業のための打ち合わせに時間がかかった。これらを能率よく推進していくことがこれからの課題である。

次年度は、実行委員会において、探究学習、PBL のテンプレート、共通の教材やルーブリックを利用した評価システムの開発を行い、授業のさらなる充実を図る。さらに、職員研修を通して、スキル向上に努めたい。

(3) 検証の仕組みの構築

本年の事業計画の主な目標は、これまで行ってきた事業の展開と整理であった。次年度はそれぞれの事業のアセスメントの仕組みを研究対象とする。

(4) カリキュラム開発等専門家

カリキュラム開発等専門家は、本年度主に生徒のボランティア活動のコーディネーターとしての役割の部分が大きかった。現状の本校で認識している生徒のボランティア活動の効果として、生徒はボランティア活動を通して地域の大人と関わることで、①地域の活動を行う一員として認められているという有用感と、②地域に関わる大人の存在を知るといふものがある。

本年度一緒に生徒とボランティア活動に参加している本校のカリキュラム開発等専門家は、上記の2つの効果を生み出す要因として、生徒が多く思いを持った地域の大人の集団の中には入ったからではないかと推測している。

来年度はボランティア活動での地域とのつながりを生かし、各種団体と共同した授業展開を企画していく。例えば、観光 I での地域でのフィールドワークで行う地域調べで地域の現状と課題を生徒が学ぶ。そして、生徒がボランティアに参加することで、主催者の抱いている地域の現状、課題、目指していることを知り、主催者の思いに対して地域でのフィールドワークを行った生徒は当事者意識をもって参加をし、活動するようという流れを作っていくことを目指す。

VI 運営指導委員会

第1回運営指導委員会 議事録

1 日時 令和元年11月14日(木)15:00~17:00

2 場所 白馬高等学校 会議室

3 出席者 (敬称略)

運営指導委員

委員長 白戸 洋 (松本大学 総合経営学部観光ホスピタリティ学科教授)

副委員長 岸 清美

(白馬ロータリークラブ会長 オーブス株式会社代表取締役社長)

委員 平塚 茂雄 (白馬山麓事務組合 総括白馬高校支援局長)

指定校

白井 彰一 (白馬高等学校長)

西沢 俊一 (白馬高等学校教頭)

浅井 勝巳 (研究開発主任)

柳田 優 (カリキュラム開発等専門家)

管理機関

斉藤 則章 (長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課

教育幹兼高校教育指導係長)

ほか

4 内容

(1) 開会行事

① 学びの改革支援課教育幹兼高校教育指導係長あいさつ

② 運営指導委員紹介

③ 出席者紹介

④ 正副委員長選出・挨拶

(2) 議題① 4月からの事業報告について 白井学校長、浅井教諭より説明

岸副委員長 マインドセットとは何か？

浅井教諭 生徒たちがやるべきことをとらえ、主体的に取り組もうとする態度であると認識している。

岸副委員長 近年、民間企業の新入社員教育の中で、新入社員に「まず発言する前に周りの人の話を聞き、よく見なさい」と、指導することがあると聞く。発言する前に、十分議論の論点を若者に把握させることを指導しているということだ。

平塚委員 これまで「高校生レストラン」や「高校生ホテル」の活動を見てきたが、ますます民間の力が重要になってきていると感じる。一方で、学校の先生方も接客や調理について理解していることが大切ではないか。

浅井教諭 岸委員長の「聞くこと」の大切さは本校の高校生にとっても同じである。ア

アメリカの High Tech High（以下 HTH）に視察に行ったが、HTH では、事前プログラムがあり、対話を大切にしていた。聞くだけでなく、相手の成長につながる建設的な意見の出し方をトレーニングしていた。現在、新入社員研修でよく用いられる、人材開発研修プログラムを本事業のプログラムに取り入れられないか、検討している。

また、教師がすべて理解しようとすることは大切だが、民間でやっていることを、すべて教師が把握することは、実際には困難であると考えている。

平塚委員 白馬高校には、観光について指導できるような先生が少ない。看板の「国際」も「観光」も定義づけがあいまいになっているのではないか。観光という領域で白馬に残る人材を育てるならば、索道・スキー・山岳に特化した授業ができる先生をお願いするべきではないかと思う。山岳の環境を守るなら、それに特化したものを持っている人に授業を担当してもらわなければならないのではないか。

岸副委員長 公立高校でよくここまで子供たちの教育をして、廃校寸前の学校を変えていただいた。驚異的なことだと感謝している。この10年間、教育の発展を見せていただいた。現状で、学校と地域とがうまくつながっているように思う。

国際と観光の話が出たが、本校は観光だけが目的ではない。学科名には、「国際」がついている。白馬ではスポーツ選手を目指している高校生もいる。これも国際といえると思う。国際大会では英会話が必要になる。学校長はこの「国際」「観光」についてどうお考えか。

臼井学校長 本校の学科名には観光科に「国際」がついている。県外からの入学者も多いが、志望理由は国際的な学習内容であると認識している。生きた英語を学びたいと願って入学してきている生徒も多い。観光への期待は最近大きくなってきている。

入学後、多くの生徒たちは、英語が必要だと感じ、そのうち英語だけでなく、地域の課題も大切だと思うようになり、総合的に力が身につく3年間の学びの中で、次の自分のステップを考えている。「観光科」があいまいになっている印象を持たれるかもしれないが、それは仕方のない部分ではないかと思う。

岸副委員長 本事業の目標に「世界水準の山岳リゾートHAKUBAの学びの循環サイクルの構築」とあるが、ここには、普通科は関わっているのか。「山岳リゾート白馬での学び」ということを意味しているのか。リゾート白馬そのものをつくるのではなく、ここで学ぶ、という理解でよいか。

臼井学校長 そのような理解でよいと思う。

白戸委員長 私のほうから2点ある。マインドセットは探究的な学びには関係が深い。大学の3年生4年生でゼミを担当しているが、今年3年生の前期ではグループワークを実施した。対象となる地域で、地元の人と交流した後、観光や福祉など、それぞれの専門領域の中でやりたいことを半年かけて議論させた。とてもよい経験になった。以降、学生主体で活動を続けている。マインドセットに時間をかけるべきだと思う。

その際、地域課題を把握することが大切だ。自分の思いだけではうまくいかない。飯田 OIDE 長姫高校の地域教育の中で、3年生になると地区ごとに活動をする。数年前から2年生に農業、高齢化等の地域課題や社会的な課題を学習に取り入れたところ、効果があった。今、社会で起こっていることを把握でき、自分がやっていることの意味がつかめるようになってきた。

2点目については、「国際観光」という言葉の難しさである。人を育てるときに、地域にどんな人材が必要かという視点がないと、学校としても育てる人材像をもてないのではないか。松本大学では、社会福祉士を10名養成している。全員が社会福祉協議会などに就職していく。地域社会と学校が育てる人材像のすり合わせをすることが必要であると思う。

② 事業計画とこれまでの取組みについて

浅井教諭 柳田カリキュラム開発等専門家より説明

③ 協議等（質疑応答・意見交換）

平塚委員 普通の村人は、案外「よい発想」をもっている。そうした普通の人をどのように発掘して学校と関わってもらうか。昔の白馬を知っている人も授業に係わってほしい。背丈よりも雪があったことを知っている人や災害を知っている人たちを授業に取り入れたい。華やかな部分だけでなく、バブルの前の、陰になるような寒い農業をやっていたころの白馬も教えていくことが必要ではないかと思う。

浅井教諭 白馬は、様々な人が暮らしている。昔からの住民や、1980年代にUターン、Iターンで来た人、外国人など、多彩である。最近はビジネスをされている方もいる。そうした方々にアクセスし、学校と係わってもらいたいと考えている。

白戸委員長 観光は、変化してきている。従来の名所旧跡への観光でなく、普通の暮らしに触れることがメインになってきた。昔は、有名な温泉や夢のような世界に行くことが「観光」だったが、今は地元の人が当たり前で食べているものが「観光」になる。大きなお祭りを遠くからみるのではなく、小さなお祭りに参加させてもらうようになった。長野県は、大きな自然景観、名所旧跡が多いために、そうした観光が遅れている。普通の人の中に観光の資源が眠っている。ただし、日常に非日常が土足で入るとトラブルにもなる。日常と非日常をどうつないでいくか。地域の日常をどう観光資源としてアレンジするのが大切だと思う。

平塚委員 私たちの年代の持っている技術を子供たちに伝えたい。蛇をとれるとか、蜂をとれるとか、和かんじきをはけるとか。このままでは途絶えてしまう。観光と結びつけながら、技術の伝承が必要。今、野沢菜をつける時期だが、その技術の伝承もなくなっている。技術の伝承を観光に取り入れることが必要ではないかと思う。

岸副委員長 現在、白馬では新しい産業開発が進んでいる。この夏には、前年比700倍の人が来た。よそから来た企業が、新しい着想で、新しい事業を行っている。これは、白馬を壊していることではない。また一方で平塚さんが言われた白馬の基盤を学ぶ

こと。白馬を説明できる、発信できるようになれば、自信が持てるようになり、国際力が身につくのではないか。

白戸委員長 生徒の学びについていえば、文化や歴史を学ぶことは大切。日本人が遅れているのは、この部分である。自分の国の文化は何かと言われると、話せない。自分の文化のアイデンティティを学ぶことが大切であり、それが国際人であるといえる。問題は英語が話せるということではない。

三郷村の集落で、生活記録をとる活動を学生とやった。月に一度老人クラブに集まってもらった。その老人たちから話を聞いた内容を記録にとった。高校生がそれをやってみたらどうか。この企画をやるうちに、お年寄りが元気になっていった。地域に対しても効果がある。高校生も存在意義を感じる。

最初に校長先生が言われた、地域に若い人が定着するかどうかということだが、うちの学生を見ていて感じるのは、職がなくても自分でそれを作ろうとする意欲がないとむずかしいと思う。ここにしようと思うのは、自分が必要とされているかどうかという経験をしているかどうかによる。お年寄りから感謝されることが、高校生にとっては、とても良い経験になるのではないか。学校に来てもらうよりは、生徒が外に出ていくことが大切だ。若い人との交流が持てることで、老人も歓迎してくれるだろう。

平塚委員 生徒が地域に入っていくことは大切。白馬にも老人会はある。高校生が訪問すると「さああがれ」と歓迎してくれる。そこで白馬の伝統が伝わる。

柳田カリキュラム開発等専門家 夏 PBL 合宿で高校生が老人との交流をしたが、とても良い経験となった。地域の高齢者との関わりをぜひ持ちたい。

岸副委員長 兵庫県にいたとき、近くに外国人の友人が多かった。その時に、「日本人はどうして日本のことを知らないか」と言われた。歴史的なことや様々な伝統技術を知っていれば自信につながる。村内には「グリーンスポーツの森」などがあり、草鞋や野沢菜の講習会ができる。国際力をつけるためにも利用してほしい。

白戸委員長 コミュニティとの接点を考えたときに、テーマ型コミュニティと地区型コミュニティとがある。テーマ型では、ある一つのテーマを共有する地域を超えたようなつながりがある。テーマ型において地域課題を見つけて解決するのは簡単だ。しかし社会人になったときに、課題となるのは、地区型コミュニティとどう関わるかということだ。そこにいる人たちの話を聞いて、課題や思いや悲しみを聞いて、課題を見つけることが必要になる。これができないと地域で活動できない。地域の中に眠っている課題を見つけるのは難しい。地域の人は思っていることも本当のことを言わない。そういうアプローチを身に着けることは、今後、必要となるだろう。

3 閉会行事 次回運営委員会は、2月又は3月に予定

第2回運営指導委員会 議事録

- 1 日時 令和2年3月27日(金) 12:30～14:00
- 2 場所 白馬高等学校 会議室
- 3 出席者 (敬称略)
運営指導委員
委員長 白戸 洋 (松本大学 総合経営学部観光ホスピタリティ学科教授)
副委員長 岸 清美
(白馬ロータリークラブ会長 オーブス株式会社代表取締役社長)
委員 伊藤 まゆみ(白馬村議会議員)
平塚 茂雄(白馬山麓事務組合 総括白馬高校支援局長)
指定校
白井 彰一(白馬高等学校長)
西沢 俊一(白馬高等学校教頭)
浅井 勝巳(研究開発主任)
柳田 優 (カリキュラム開発等専門家)
管理機関
斉藤 則章 (長野県教育委員会事務局 学びの改革支援課
教育幹兼高校教育指導係長)
ほか

4 内容

(1) 開会行事

- ① 学びの改革支援課教育幹兼高校教育指導係長あいさつ
- ② 白馬高等学校長挨拶
- ③ 出席者紹介
- ④ 委員長挨拶

(2) 議題

浅井教諭 もともと白馬高校は「田植え」や「釣り」など、「地域資源」を活用した授業を展開してきた。現在白馬高校では、ローカルな部分とグローバルな部分の両方の教育が求められている。この両者を実現するため、学校の中だけでは育成困難な部分を地域の力を借りて実施しているのがこの事業の役割である。

生徒の理想像は「白馬小谷地域が好きで、地域の活動にも熱心で、地域をより良くするためのアイデアを持ち、課題解決に向けて実践できる人」である。こうした人材を育成するために、様々な取組を行った。「大人になって地域活動に熱心な人は、子供時代に地域活動の経験がある。」と言われる。ここにいることに価値があると思える生徒を育成するために、どのようなプログラムが必要か考えていきたい。

今年を取組では、社会の授業の中で、「地域経済」について考えた。白馬村からの誘いで始まった企画であるが、観光に関するお金の流れを調べる観光統計について学んだ。

「SDGs ラボ」は今年4回実施した。気候変動に関するテーマで生徒が自分から学んできたが、現在は教室の断熱効果に興味を持って次年度に向けて活動を始めている。

現在の課題は、新しい事業を進める際の、合意形成をどのようにしていくかということにある。

白戸委員長 合意形成をすることが課題だということだが、具体的にどのような課題なのか。

浅井教諭 例えば、今「断熱」について生徒たちと学習しているが、多くの人々と関わる必要が出てくる。物事を前に進めようすると、合意形成が必要になり、その都度時間がかかってしまう。

伊藤委員 「断熱」ということだが白馬に建築業組合がある。建築業組合の力を借りてはどうか。

浅井教諭 それは良いアイデアだ。たとえば建築の問題などで相談すると、いろいろな人と合意形成をしなければならず、時間がかかる。建築業組合の力を借りられれば、時間短縮につながる。

伊藤委員 ドイツの建築の例を見ると断熱が進んでいる。この白馬高校での断熱の取組がうまくいけば、白馬村議会でリフォームに補助金を出してもらうことも提案していきたい。

白戸委員長 先ほどの「合意形成」について戻るが、実際の社会ではなかなか合意形成に時間がかかって物事が先に進まないことがある。そんな現実を自分の大学の学生に見せることは勉強になるものだが、高校生については、先生はどう捉えているのか。

浅井教諭 「断熱」を学ぶ生徒たちは、自分たちが何か活動をする際にはいろいろな交渉ごとがあって、交渉を進めて合意形成することに面倒だと感じることもあるようだ。また違う意見の人と意見を交わしながら新しいものを作り出すことが難しいと感じる面もある。

岸副委員長 他の話題になるが白戸先生に伺いたいですが、白馬高校が魅力的なカリキュラムを作成する中で、受験などに必要な学力をどうつけるかも大切だと思うが。

柳田カリキュラム開発等専門家 これまで定期試験などの対策補習にも関わってきた。本校は学力をつけることにも力を入れている。現実的には、小規模の学校で進学にも力を入れるのは難しい。魅力的なカリキュラムを作りながら、同時に受験のための力をつけることが難しい。

岸副委員長 特別学習、課外授業での学力をカバーしてくださっていることは承知している。よろしくお願いします。

伊藤委員 立科町には、「立科学」というのがあるようだ。地元を知るため、村内から地

域住民が高校に出かけられれば、高校生との交流ができる。また、学校の先生から、「困っているから助けて」というメッセージがあれば、ぜひ連絡してほしい。地域もサポートに入れる。関係づくりができると思う。

白戸委員長 白馬高校は素晴らしい取組をしているが、関係者だけでなく、白馬小谷地区の住民に直接伝わっていくことが課題である。普段学校と関係ない人にも学校を評価してほしい。地域住民が、学校と直接関われる機会がほしい。参加してもらう仕組みをたくさん作ることは、白馬の教育を達成するために必要である。

地域の人から直接学ぶことにより、主体性が成長するのではないか。自分の大学の生徒たちも、地域の中で活動すると、地域の人々からクレームを言われることがある。その時に、「なんでそのようなクレームをいうのか」と考えてみる必要がある。

また、別の見方から考えると、学ぶことについての動機付けが必要になっている。実社会の矛盾をどう解決していくかがモチベーションになっている。目の前で行っていることを「なぜなのか」と考えてみる必要がある。課題が出てきた時に、教科で何ができるか考えることが教科学習につながる。

伊藤委員 田舎から若者が都会に流出しているが、理由は「田舎がつまらない」からだという。ならば、どうしたら面白くなるか。地元がイキイキしないと、出て行ってしまふのだろう。どうすればいいのか。

白井校長 地域共同学習支援員の丸山さんはよく話している。高校が元気になると地域が元気になる。白馬高校が元気になると、地域が生きる。白馬高校がキラキラすると村に良い影響を与えるだろう。まだ道半ばであるが、地域から信頼されるような学校にしたい。この文部科学省「地域との協働による高等学校教育改革推進事業」が本校に来たことで、質と量の両面で良い効果があった。

浅井教諭 白馬はわかりやすい観光の目玉がある。その目玉をどのように事業に生かしていけばいいのか。また、村には様々な人がいる。年配者と話をすることが勉強になる。高校生にいろいろな人と話をさせたい。

伊藤委員 昭和一桁の戦後地域に戻って残っている人たちと関わるのが大切ではないか。また、白馬の目立つところばかりでなく、いろいろなところに目を向けてほしい。

白戸委員長 地域と全く関わりのない人は、地域での生活はつまらないと言う。100人いれば、半分は出て行ってしまふだろう。でも、魅力に気がつくことが大切。地元のことを知らないまま出てしまっている。地元のこと知らないのに、つまらないと感じ出してしまう。地元を知ることが大切ではないか。

柳田カリキュラム開発等専門家 教員が事業全体が見えていない。教員の中で一緒にこの事業に参加できることや、地域住民と一緒に参加できる機会がほしい。

白戸委員長 協議会などを学校でやって、新しい先生と古い先生とが情報の共有化を図ることも今後の課題である。

白戸委員長 次に来年度の事業計画について話を進めたい。

浅井教諭 生徒の学力をつけることも課題となっている。生きる力と同時にテストで点が取れる力が必要となっている。生徒達には勉強に対してやる気を持ってほしいし、やり方を知ってほしい。考え方を教えたい。夏休みに信大生に関わってもらった。そんな関わりも大切にしたい。教科横断型 PBL の開発と同時に評価をおこなうのが 2 年次の目標である。地域の理想の姿を提言させたいが、地域との接点を持ちながら、村の理想の姿を提言したい。

岸副委員長 村内では、白馬高校生の評価が高い。白馬高校生は、意見が活発である。生徒達からアイデアがたくさんが出る。白馬高校の評価はまだまだこれから。生徒が大学に進学してその評価はこれからだ。学力は学ぶ力である。学ぶ力をつけたい。最近白馬高校生は生きる力がついている。

白戸委員長 地域と協働して行うこの事業は、学力や進学には役に立たないと言われてきた。今後、この事業の学びが役に立つことを理論付けることが必要だ。

3 閉会行事

事務局 事務局より、次年度のこの会は年度の早い段階で実施したい。

VII コンソーシアム

活動日程	活動内容
平成 31 年 4 月 8 日	コンソーシアム構成団体個別協議（白馬東急ホテル） 高校生レストランの実施日，授業内容を協議，決定
平成 31 年 4 月 23 日	コンソーシアム構成団体個別協議（シェラリゾート白馬） 高校生ホテルの実施日，授業内容を協議，決定
令和元年 5 月 13 日	コンソーシアム構成団体個別協議（白馬インターナショナル スクール設立準備財団）SDGs ラボの実施日，内容を協議決定
令和元年 5 月 17 日	コンソーシアム構成団体個別協議（白馬村） 地域関連調査と地域経済循環に関わる学習の授業内容を協 議，決定
令和元年 12 月 26 日	第 1 回コンソーシアム担当者会 ・活動内容の報告 ・各団体からの提案を協議し，第 2 会合に向けての協議内容を 設定
令和 2 年 3 月 17 日	第 2 回コンソーシアム担当者会 ・今年度の活動報告 ・来年度の事業計画 ・本校職員とのワークショップ

コンソーシアム構成団体と協働した授業の実施

高校生レストラン…白馬東急ホテル

高校生ホテル…ホテルシェラリゾート白馬

白馬 SDGs ラボ…白馬インターナショナルスクール準備財団

コンソーシアムの代表者と本校職員とのワークショップ



青春、まぶしいきらめき感じて

白馬・しろま祭

情熱注ぎ熱さ全開おもてなし



ホスターや市内の視察客を手にする生徒会役員ら。



白馬の白馬高校で、6日「白馬祭」の一環として、本校が「WORLD LOVE」をテーマにしたパフォーマンスを行った。生徒会役員らが中心となり、市内の視察客やホスターを歓迎する演出が好評だった。

はじけよう「しろま祭」

白馬電 6、7日一般公開催し多彩

白馬の白馬高校で、6日「白馬祭」の一環として、本校が「WORLD LOVE」をテーマにしたパフォーマンスを行った。生徒会役員らが中心となり、市内の視察客やホスターを歓迎する演出が好評だった。

報道に見る白馬高校

2019年7月～12月

2019.7.2
信毎 MG プレス

地域 Local News

白馬 観光産業魅力知って

白馬電の白馬高校で、6日「白馬祭」の一環として、本校が「WORLD LOVE」をテーマにしたパフォーマンスを行った。生徒会役員らが中心となり、市内の視察客やホスターを歓迎する演出が好評だった。

4事業者が実習生受け入れ

白馬電の白馬高校で、6日「白馬祭」の一環として、本校が「WORLD LOVE」をテーマにしたパフォーマンスを行った。生徒会役員らが中心となり、市内の視察客やホスターを歓迎する演出が好評だった。



白馬電の白馬高校で、6日「白馬祭」の一環として、本校が「WORLD LOVE」をテーマにしたパフォーマンスを行った。生徒会役員らが中心となり、市内の視察客やホスターを歓迎する演出が好評だった。

経済波及効果調べる基礎資料

白馬村独自「産業連関表」

白馬電の白馬高校で、6日「白馬祭」の一環として、本校が「WORLD LOVE」をテーマにしたパフォーマンスを行った。生徒会役員らが中心となり、市内の視察客やホスターを歓迎する演出が好評だった。

白馬電の白馬高校で、6日「白馬祭」の一環として、本校が「WORLD LOVE」をテーマにしたパフォーマンスを行った。生徒会役員らが中心となり、市内の視察客やホスターを歓迎する演出が好評だった。

2019.7.6
信濃毎日

2019.7.5
信毎 MG プレス

2019.7.12
大糸タイムス

若さはじけたしろま祭

白馬電 ホッパに魅力アピール

白馬電の白馬高校で、6日「白馬祭」の一環として、本校が「WORLD LOVE」をテーマにしたパフォーマンスを行った。生徒会役員らが中心となり、市内の視察客やホスターを歓迎する演出が好評だった。



白馬電の白馬高校で、6日「白馬祭」の一環として、本校が「WORLD LOVE」をテーマにしたパフォーマンスを行った。生徒会役員らが中心となり、市内の視察客やホスターを歓迎する演出が好評だった。

2019.7.4
大糸タイムス

学びの循環サイクル構築

自馬高 文科省 地域協働指定校に



自馬のロゴの制作に力を入れている生徒と先生

自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

2019. 7. 14
大系タイムス

外国人に松本城 観光案内

自馬高国際観光 実践的英語身に付ける

自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。



自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

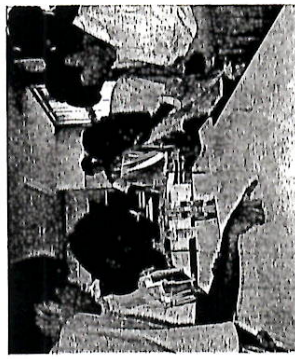
自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

2019. 7. 17
大系タイムス

地域の魅力 大学生と探求

自馬高 しらひま学舎でPBL各宿



自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。



自馬高生と交流する信大生

信大生来訪 高校生と対話

自馬高で交流「じもとーく」

自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

自馬校の自馬校校（自馬校）は、文科省の「地域協働指定校」に指定され、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。この取り組みは、自馬校の特色である「自馬校」の理念に基づき、地域と連携した学びの循環サイクルを構築している。

2019. 8. 3
大系タイムス

2019. 8. 9
大系タイムス

閉校危機の白馬高 回復のわけは

白馬・小谷村が奮起「関係の深さ全国一」

閉校の危機に陥った私立高校が立ち直る要因は、何れも同じ。多くの大手企業を輩出し、国内外から観光客が訪れるリゾート地だが、地元では生徒の数が減り続けていた。立ち上がったのは現地の二つの村。全国から訪れた関係者が「校舎から響く雄叫びを聞きながら」本校を建て、そしてその二つを合併させた。

学力アップ・全国募集が柱

8月1日、白馬町の白馬高校は、ひびく雄叫びを響かせる。校舎の壁に、白馬町の歴史と文化を記した書道画が展示されている。白馬町の歴史と文化を記した書道画が展示されている。白馬町の歴史と文化を記した書道画が展示されている。

白馬町は、白馬町の歴史と文化を記した書道画が展示されている。白馬町の歴史と文化を記した書道画が展示されている。白馬町の歴史と文化を記した書道画が展示されている。



白馬村や小谷村の魅力を話し合う白馬高生と大學生＝8日、白馬高



白馬第一校長 田井第一

5年前、白馬高は閉校する。閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。

閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。



■白馬高のデーター

- ・19年度の入学数は72人、普通科32人、国際観光科40人。県外出身は、いずれも国際観光科で、埼玉と愛知が8人、東京、新潟、富山、大阪、兵庫が2人、宮城、神奈川、石川、京都、岡山、山口が1人
- ・生徒に聞く「白馬高を選んだ理由」英語が学べる▽観光が学べる▽自然豊か▽家がある▽バスが利用できる▽新たな環境で学べる▽入学生24人へのアンケートから）
- ・国際観光科1期生を含む19年度卒業生70人の進路 大学29人(41%)、短大・専門学校22人(31%)、就職14人(20%)、うち11人が県内)

寮と塾 予算2億円超

5年前、白馬高は閉校する。閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。

閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。閉校する理由は何もなかった。

寮と塾の予算は2億円超。寮と塾の予算は2億円超。寮と塾の予算は2億円超。

取材を終えて

寮の運営 県の支援欠かせぬ

寮の運営は、県の支援が欠かせない。寮の運営は、県の支援が欠かせない。寮の運営は、県の支援が欠かせない。

寮の運営は、県の支援が欠かせない。寮の運営は、県の支援が欠かせない。寮の運営は、県の支援が欠かせない。

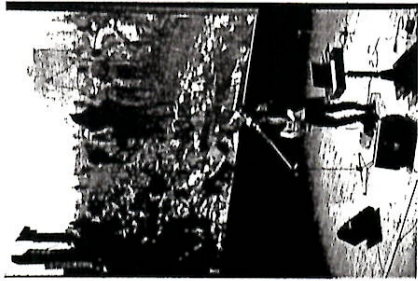
寮の運営 県の支援欠かせぬ

寮の運営は、県の支援が欠かせない。寮の運営は、県の支援が欠かせない。寮の運営は、県の支援が欠かせない。

平和への思い語り継ぎ歌う

白馬で清水まなぶさん講演会

自衛隊・小笠原大尉の講演会が、白馬村の公民館で開かれた。清水まなぶ大尉は、自衛隊に入隊して以来、平和の大切さを語り継ぎたいと、講演会を開催した。



講演会に清水大尉が登壇する様子。

清水大尉は、自衛隊に入隊して以来、平和の大切さを語り継ぎたいと、講演会を開催した。講演では、自衛隊の役割や、平和の大切さを語り、聴衆の心に届けた。清水大尉は、自衛隊に入隊して以来、平和の大切さを語り継ぎたいと、講演会を開催した。講演では、自衛隊の役割や、平和の大切さを語り、聴衆の心に届けた。

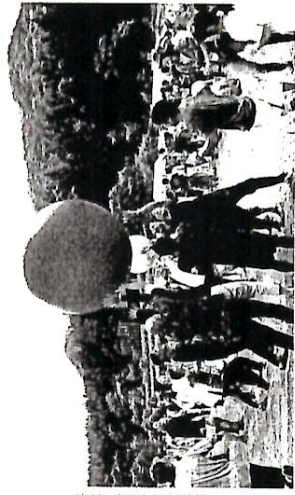
清水大尉は、自衛隊に入隊して以来、平和の大切さを語り継ぎたいと、講演会を開催した。講演では、自衛隊の役割や、平和の大切さを語り、聴衆の心に届けた。清水大尉は、自衛隊に入隊して以来、平和の大切さを語り継ぎたいと、講演会を開催した。

白熱の競技 神城 VS 北城

白馬村民運動会 450人交流

白馬村の運動会が、白馬村の公民館で開かれた。神城と北城の対戦が、白熱の戦いを演じた。観客も大盛り上がりで、競技を応援した。

神城と北城の対戦が、白熱の戦いを演じた。観客も大盛り上がりで、競技を応援した。神城は、北城を相手に、激しい戦いを演じた。観客も大盛り上がりで、競技を応援した。



伝統的な祭りの様子。



祭りの様子。

神城と北城の対戦が、白熱の戦いを演じた。観客も大盛り上がりで、競技を応援した。神城は、北城を相手に、激しい戦いを演じた。観客も大盛り上がりで、競技を応援した。

県幹部 現場の課題共有

鳥インバウンド推進へ政策対話



県幹部と現場の関係者が、鳥インバウンド推進の課題共有を行いました。現場の課題を共有し、政策対話を行いました。

鳥インバウンド推進の課題共有を行いました。現場の課題を共有し、政策対話を行いました。現場の課題を共有し、政策対話を行いました。

現場の課題共有を行いました。現場の課題を共有し、政策対話を行いました。現場の課題を共有し、政策対話を行いました。

現場の課題共有を行いました。現場の課題を共有し、政策対話を行いました。現場の課題を共有し、政策対話を行いました。

現場の課題共有を行いました。現場の課題を共有し、政策対話を行いました。現場の課題を共有し、政策対話を行いました。

モーターサイクルの祭典 盛況

BMWモトラッドジャパン 白馬に国内外から6000人集う



白馬のモーターサイクル祭典「BMW Motorrad Japan」が、9月12日（土）から13日（日）の2日間、白馬の中心街を会場として開催された。国内外から約6000人が集まり、大規模なイベントとなった。

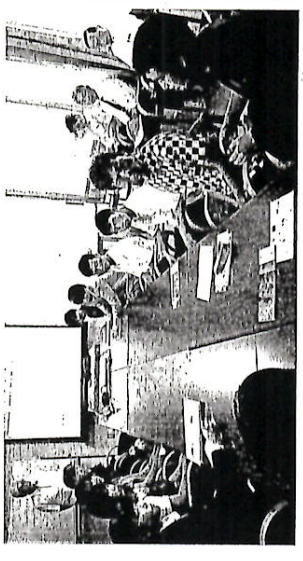
会場には、最新のBMW Motorradの展示や、体験走行の機会が設けられた。また、地元の特産品や、地域の文化を紹介するブースも並ぶ。子供向けのイベントも盛り込まれ、家族連れも多く訪れた。

この祭典は、白馬の観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みの一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。



白馬のモーターサイクル祭典は、今年も大盛況を収めた。会場には、最新のBMW Motorradの展示や、体験走行の機会が設けられた。また、地元の特産品や、地域の文化を紹介するブースも並ぶ。子供向けのイベントも盛り込まれ、家族連れも多く訪れた。

この祭典は、白馬の観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みの一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。



観光地の課題 活発に議論

東京の女子大生 白馬高生と交流

白馬の観光地としての課題について、東京の女子大生と白馬の高校生が交流し、活発な議論を行った。両者の意見交換を通じて、観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みについて話し合った。

参加した女子大生は、白馬の自然環境や文化について興味を示し、高校生からは、観光地としての課題や、地域活性化のための取り組みについて詳しく説明された。両者の意見交換を通じて、観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みについて話し合った。

この交流は、白馬の観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みの一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

白馬の観光地としての課題について、東京の女子大生と白馬の高校生が交流し、活発な議論を行った。両者の意見交換を通じて、観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みについて話し合った。

参加した女子大生は、白馬の自然環境や文化について興味を示し、高校生からは、観光地としての課題や、地域活性化のための取り組みについて詳しく説明された。両者の意見交換を通じて、観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みについて話し合った。

この交流は、白馬の観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みの一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

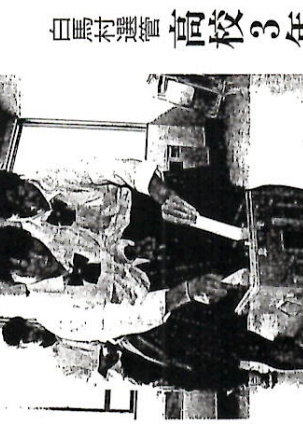
白馬の観光地としての課題について、東京の女子大生と白馬の高校生が交流し、活発な議論を行った。両者の意見交換を通じて、観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みについて話し合った。

参加した女子大生は、白馬の自然環境や文化について興味を示し、高校生からは、観光地としての課題や、地域活性化のための取り組みについて詳しく説明された。両者の意見交換を通じて、観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みについて話し合った。

この交流は、白馬の観光地としての魅力を高め、地域活性化を図るための取り組みの一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

模擬投票で選挙実感

白馬村選管 高校3年生に出前授業



白馬村選挙管理委員会（選管）は、9月18日（土）に白馬村の高校3年生を対象に、模擬投票の実感を得るための出前授業を行った。授業では、選挙の仕組みや、投票の重要性について詳しく説明された。

模擬投票では、生徒一人ひとりが投票箱に入り、秘密を守りながら投票を行った。この経験を通じて、選挙の重要性や、投票の大切さを実感した。また、選挙の仕組みや、投票の重要性について詳しく説明された。

この授業は、白馬村の選挙管理委員会の一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

白馬村選挙管理委員会（選管）は、9月18日（土）に白馬村の高校3年生を対象に、模擬投票の実感を得るための出前授業を行った。授業では、選挙の仕組みや、投票の重要性について詳しく説明された。

模擬投票では、生徒一人ひとりが投票箱に入り、秘密を守りながら投票を行った。この経験を通じて、選挙の重要性や、投票の大切さを実感した。また、選挙の仕組みや、投票の重要性について詳しく説明された。

この授業は、白馬村の選挙管理委員会の一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

白馬村選挙管理委員会（選管）は、9月18日（土）に白馬村の高校3年生を対象に、模擬投票の実感を得るための出前授業を行った。授業では、選挙の仕組みや、投票の重要性について詳しく説明された。

模擬投票では、生徒一人ひとりが投票箱に入り、秘密を守りながら投票を行った。この経験を通じて、選挙の重要性や、投票の大切さを実感した。また、選挙の仕組みや、投票の重要性について詳しく説明された。

この授業は、白馬村の選挙管理委員会の一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

白馬村選挙管理委員会（選管）は、9月18日（土）に白馬村の高校3年生を対象に、模擬投票の実感を得るための出前授業を行った。授業では、選挙の仕組みや、投票の重要性について詳しく説明された。

模擬投票では、生徒一人ひとりが投票箱に入り、秘密を守りながら投票を行った。この経験を通じて、選挙の重要性や、投票の大切さを実感した。また、選挙の仕組みや、投票の重要性について詳しく説明された。

この授業は、白馬村の選挙管理委員会の一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

信州 横談

エケラン高1年 堀田将吾さん(16) 18歳早く責任感芽生える



信州エケラン高等学校1年生の堀田将吾さん（16歳）は、18歳早く責任感を芽生え、社会貢献活動に取り組んでいる。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。

堀田さんは、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。

この活動は、信州エケラン高等学校の一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

信州エケラン高等学校1年生の堀田将吾さん（16歳）は、18歳早く責任感を芽生え、社会貢献活動に取り組んでいる。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。

堀田さんは、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。

この活動は、信州エケラン高等学校の一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

信州エケラン高等学校1年生の堀田将吾さん（16歳）は、18歳早く責任感を芽生え、社会貢献活動に取り組んでいる。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。

堀田さんは、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。

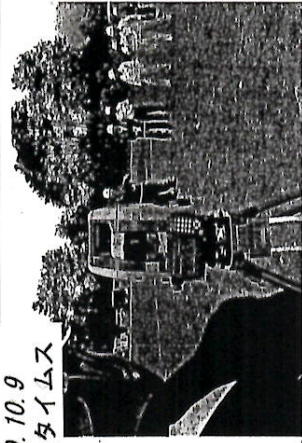
この活動は、信州エケラン高等学校の一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

信州エケラン高等学校1年生の堀田将吾さん（16歳）は、18歳早く責任感を芽生え、社会貢献活動に取り組んでいる。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。

堀田さんは、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。彼は、地域の活性化や、社会の発展のために、積極的に活動している。

この活動は、信州エケラン高等学校の一環として行われている。今後も、さらなる発展を期して開催される予定だ。

2019.10.9
大系タイムス



土木建築の現場に触れる

白馬高生14人が現場研修会

白馬建設株式会社 白馬建設事務所
白馬建設株式会社 白馬建設事務所

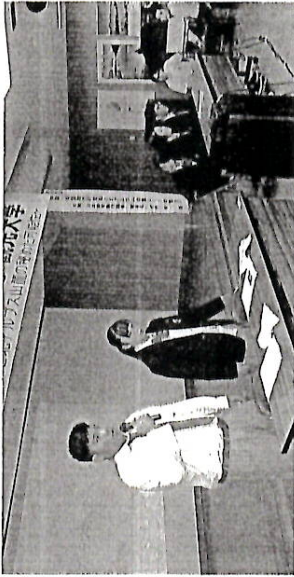
土木建築の現場に、白馬高生14人が現場研修会に参加した。研修会は、白馬建設株式会社の社員が講師となり、現場の見学や、工事の仕組みについて説明を受けた。白馬建設株式会社の社員は、現場の見学や、工事の仕組みについて説明を受けた。白馬建設株式会社の社員は、現場の見学や、工事の仕組みについて説明を受けた。

2019.10.13
大系タイムス

白馬高生が取り組み発表

人材育成の事例発表

白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。発表は、白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。発表は、白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。



白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。発表は、白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。

写真家が語る一人旅の喜び

山口進さん白馬高生に講演

山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。

山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。



2019.10.19
大系タイムス

2019.10.12
大系タイムス

2019.10.12
大系タイムス

北アブランド事前学習

白馬高国際観光科1年生

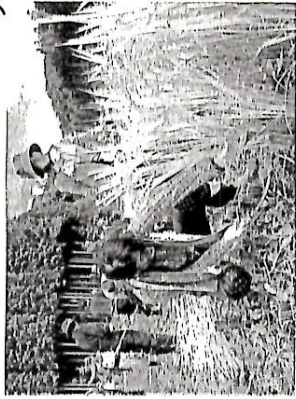
松本で14日 物産展参加へ

白馬高国際観光科1年生は、10月14日（土）松本市で「北アブランド」の事前学習を行いました。この日は、松本市の観光資源や、北アブランドの歴史について学びました。白馬高国際観光科1年生は、10月14日（土）松本市で「北アブランド」の事前学習を行いました。

2019.10.12
大系タイムス

酒造り体験で「稲刈り」

白馬ツアー参加者と地元高校生



白馬ツアー参加者と地元高校生



白馬ツアー参加者と地元高校生

白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。発表は、白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。

白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。発表は、白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。

山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。

山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。山口進さんは、一人旅の喜びについて講演した。



白馬建設株式会社の社員が、白馬高生に取り組みを発表した。

白馬高有志3人が企画

チャリティーイベント「30日」



「30日」は、白馬高有志3人が企画したチャリティーイベント。このイベントは、白馬高の生徒たちが、地域の福祉活動に貢献することを目的として開催された。当日は、多くの市民が参加し、賑やかな雰囲気の中で活動を行った。また、このイベントを通じて、地域社会との絆を深め、社会貢献の大切さを学ぶ機会となった。

気候変動抑止へアクション

気候変動抑止へアクション。地球温暖化の抑制は、人類の未来を守るための重要な課題である。白馬高の生徒たちは、この課題に取り組むために、様々な取り組みを行っている。例えば、省エネ活動や、環境教育の推進など、多岐にわたる活動を通じて、気候変動の抑止に貢献している。また、地域社会に対して、気候変動の現状や対策について啓発活動を行い、広く社会に呼びかけを行っている。このような取り組みを通じて、持続可能な社会の実現を目指している。



台風19号被災者救済に。自馬高生義援金募り2日で12万円。台風19号の被害を受けた被災者への救済活動の一環として、白馬高の生徒たちが義援金を募った。この活動は、2日間で12万円の義援金を集めた。募った義援金は、被災者の生活支援に活用される。生徒たちは、被災者への思いやりと、社会貢献の大切さを学び、活動を通じて、地域社会との絆を深めた。

台風19号被災者救済に

自馬高生 義援金募り2日で12万円

にぎやか、白馬でdeハロウィン



お家に入りの仮装で大通りを飾り掛く



「お家に入りの仮装で大通りを飾り掛く」。白馬で開催されたハロウィンイベントの様子が写っています。参加者は、様々な衣装を着用し、大通りを飾り掛けることで、賑やかな雰囲気を作り出しました。イベントには、多くの市民が参加し、家族連れも多く見られました。また、イベントを通じて、地域社会の一体感を醸成し、秋の風物詩を楽しむことができました。



思い思いの仮装で大人も子どもも楽しむ。白馬で開催されたハロウィンイベントの様子が写っています。参加者は、様々な衣装を着用し、大通りを飾り掛けることで、賑やかな雰囲気を作り出しました。イベントには、多くの市民が参加し、家族連れも多く見られました。また、イベントを通じて、地域社会の一体感を醸成し、秋の風物詩を楽しむことができました。



秋の白馬走り五輪盛り上げ トレイルランに300人

中学生が企画。秋の白馬走り五輪盛り上げ。トレイルランに300人。中学生が企画した「秋の白馬走り五輪盛り上げ」のトレイルランイベントの様子が写っています。当日は、多くの市民が参加し、賑やかな雰囲気の中で活動を行いました。また、このイベントを通じて、地域社会との絆を深め、社会貢献の大切さを学ぶ機会となりました。

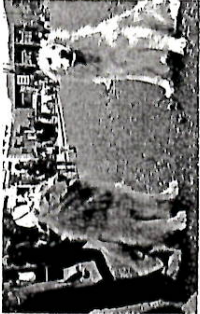
秋の風物詩 非日常楽しむ



「お家に入りの仮装で大通りを飾り掛く」。白馬で開催されたハロウィンイベントの様子が写っています。参加者は、様々な衣装を着用し、大通りを飾り掛けることで、賑やかな雰囲気を作り出しました。イベントには、多くの市民が参加し、家族連れも多く見られました。また、イベントを通じて、地域社会の一体感を醸成し、秋の風物詩を楽しむことができました。



思い思いの仮装で大人も子どもも楽しむ。白馬で開催されたハロウィンイベントの様子が写っています。参加者は、様々な衣装を着用し、大通りを飾り掛けることで、賑やかな雰囲気を作り出しました。イベントには、多くの市民が参加し、家族連れも多く見られました。また、イベントを通じて、地域社会の一体感を醸成し、秋の風物詩を楽しむことができました。



「熊パトロール」する近隣の飼い犬。白馬で開催されたハロウィンイベントの様子が写っています。参加者は、様々な衣装を着用し、大通りを飾り掛けることで、賑やかな雰囲気を作り出しました。イベントには、多くの市民が参加し、家族連れも多く見られました。また、イベントを通じて、地域社会の一体感を醸成し、秋の風物詩を楽しむことができました。

2019.12.12
大系タイムス

白馬高芸術祭に初参加

「食」イベントで経任 神保シエラ 心構え講義



白馬高生は、12月12日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

白馬高生 しろうま保育園で実習



白馬高生は、12月12日、しろうま保育園で実習を行いました。実習では、保育士としての役割や、子どもたちとの関わり方を学びました。

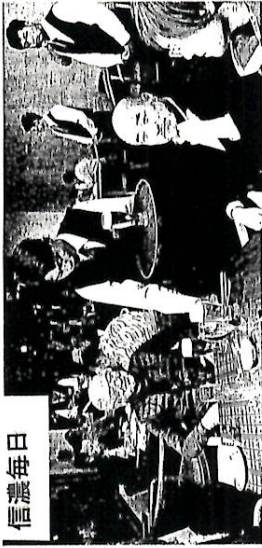
実習生は、おもちゃの整理や、子どもたちへの声かけなど、保育の基礎的な業務を行いました。また、保育士としての心構えや、コミュニケーションの大切さについても学びました。

この実習を通じて、実社会での実践的な学びが実現しました。また、子どもたちとの交流も大変楽しかったと報告しています。

園児とふれあい保育

白馬高生は、12月12日、しろうま保育園で実習を行いました。

2019.12.8
信濃毎日



白馬高生は、12月8日、しろうま保育園で実習を行いました。実習では、保育士としての役割や、子どもたちとの関わり方を学びました。

実習生は、おもちゃの整理や、子どもたちへの声かけなど、保育の基礎的な業務を行いました。また、保育士としての心構えや、コミュニケーションの大切さについても学びました。

この実習を通じて、実社会での実践的な学びが実現しました。また、子どもたちとの交流も大変楽しかったと報告しています。

白馬高生ホテルでもてなし

白馬高生は、12月12日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

接客や配膳 国際観光科29人

白馬高生は、12月12日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

白馬高生は、12月12日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

白馬高生は、12月12日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

2019.12.6
大系タイムス



白馬高生ホテルで接客実習の様子

白馬高生は、12月6日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

白馬高生は、12月6日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

2019.12.10
大系タイムス

100人のおもてなしに挑戦

白馬高校生ホテルで接客実習



白馬高生ホテルで接客実習の様子

白馬高生は、12月10日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

白馬高生は、12月10日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

2019.12.11
大系タイムス

新たな年迎える準備

昔ながらのしめ縄作り 白馬高3年生が体験学習



しめ縄作りに取り組む生徒

白馬高3年生は、12月11日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

白馬高3年生は、12月11日、本校で「食」イベントを開催し、神保シエラ氏を講師として、心構えの講義を行いました。

神保氏は、食文化の重要性や、食を通じたコミュニケーションの大切さについて、熱く話されました。また、食の安全や衛生についても詳しく説明されました。

このイベントは、本校の芸術祭に初めて参加し、多くの生徒が参加しました。神保氏の講義は、生徒たちに大きな刺激を与え、食に対する意識を高めました。

令和元年度
地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）
研究開発実施報告書（第1年次）

2020年（令和2年）3月 発行

発行者 長野県白馬高等学校

〒399-9301 長野県北安曇郡白馬村北城 8800 番地

電話 0261-72-2034 FAX 0261-71-1016

URL <https://www.nagano-c.ed.jp/hakubahs/>